

**令和 6 年度
第 3 回 三重県河川整備計画
流域委員会**

**三渡川水系
(第 1 回流域委員会)**

令和 7 年 2 月 7 日



目次

1. 流域の概要
2. 現在の計画
3. 気候変動への対応方針
4. 河川の現況
5. 治水の現状と課題
6. 利水の現状と課題
7. 環境の現状と課題
8. 今後の進め方

目次

1. 流域の概要 
2. 現在の計画
3. 気候変動への対応方針
4. 河川の現況
5. 治水の現状と課題
6. 利水の現状と課題
7. 環境の現状と課題
8. 今後の進め方

- ・ **三渡川**（みわたりがわ）は、松阪市を流域とする、総管理延長約21.1kmの二級河川である。**鉢ヶ峰**（はちがみね）を発し、東流後支川と合流し**伊勢湾**に至る。
- ・ 河床勾配は1/450～1/25,000で、中上流から下流域は水田地帯である。

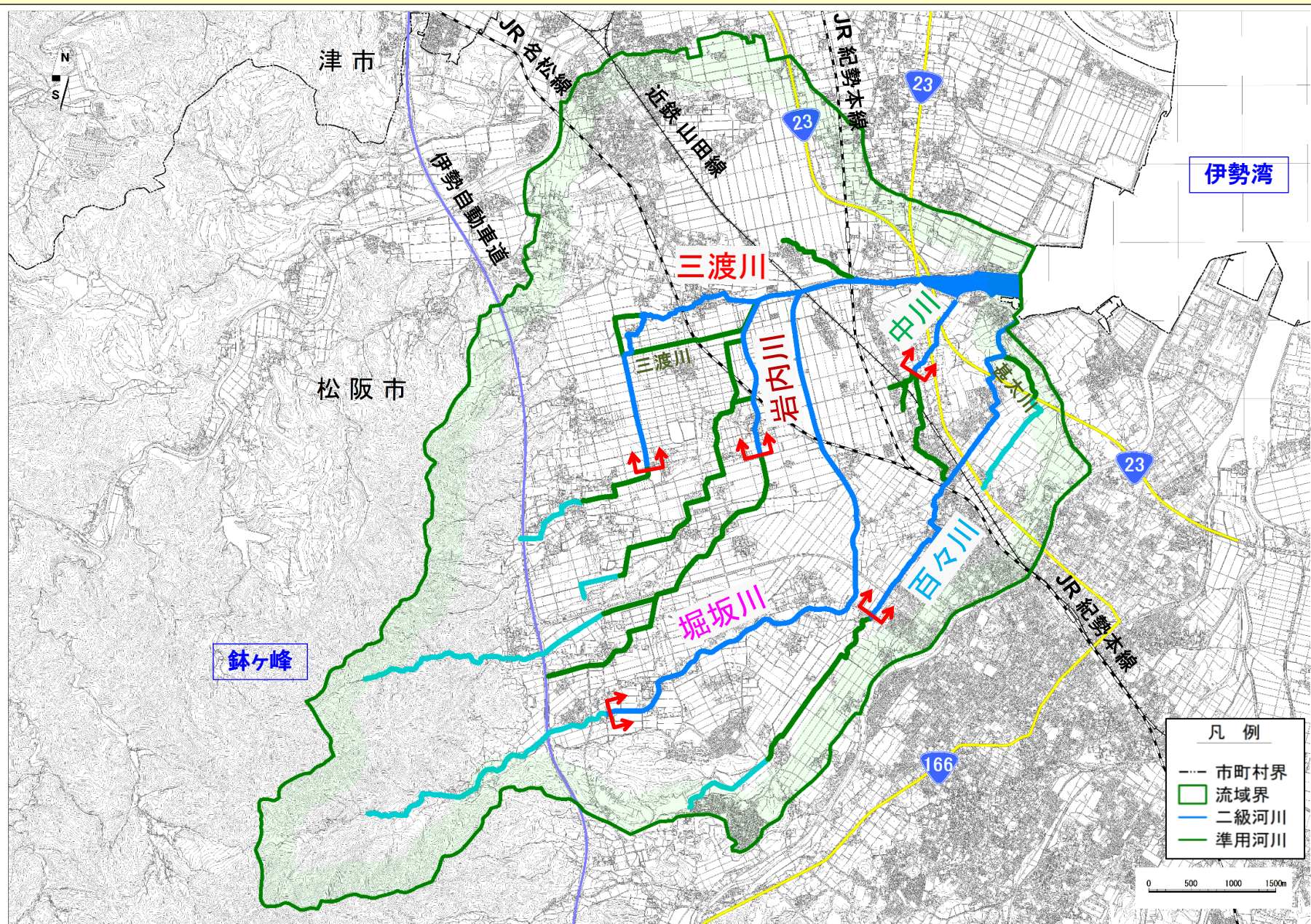
□関係市町：松阪市

□支川：**百々川**（どどがわ）、**堀坂川**（ほっさかがわ）、**岩内川**（ようちがわ）、**中川**（なかがわ）

準用河川**甚太川**（じんたがわ）、準用河川**三渡川**

流域面積：約54.31km²
管理延長：合計約21.1km

三渡川：約7.6km
百々川：約4.4km
堀坂川：約6.5km
岩内川：約1.5km
中川：約1.1km



三渡川 三渡大橋下流
(下流部)

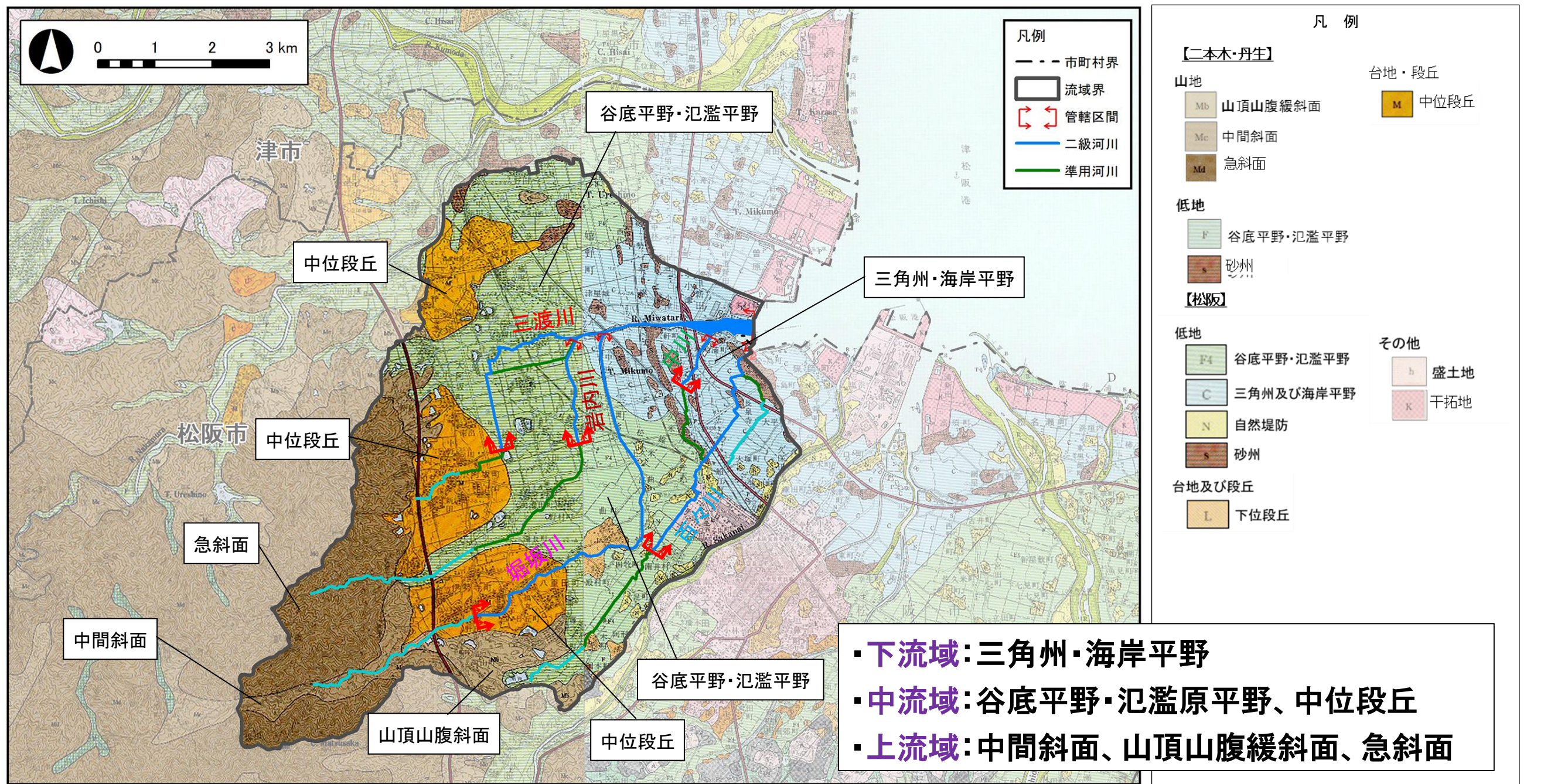


三渡川 岩内川合流点下流
(中流部)



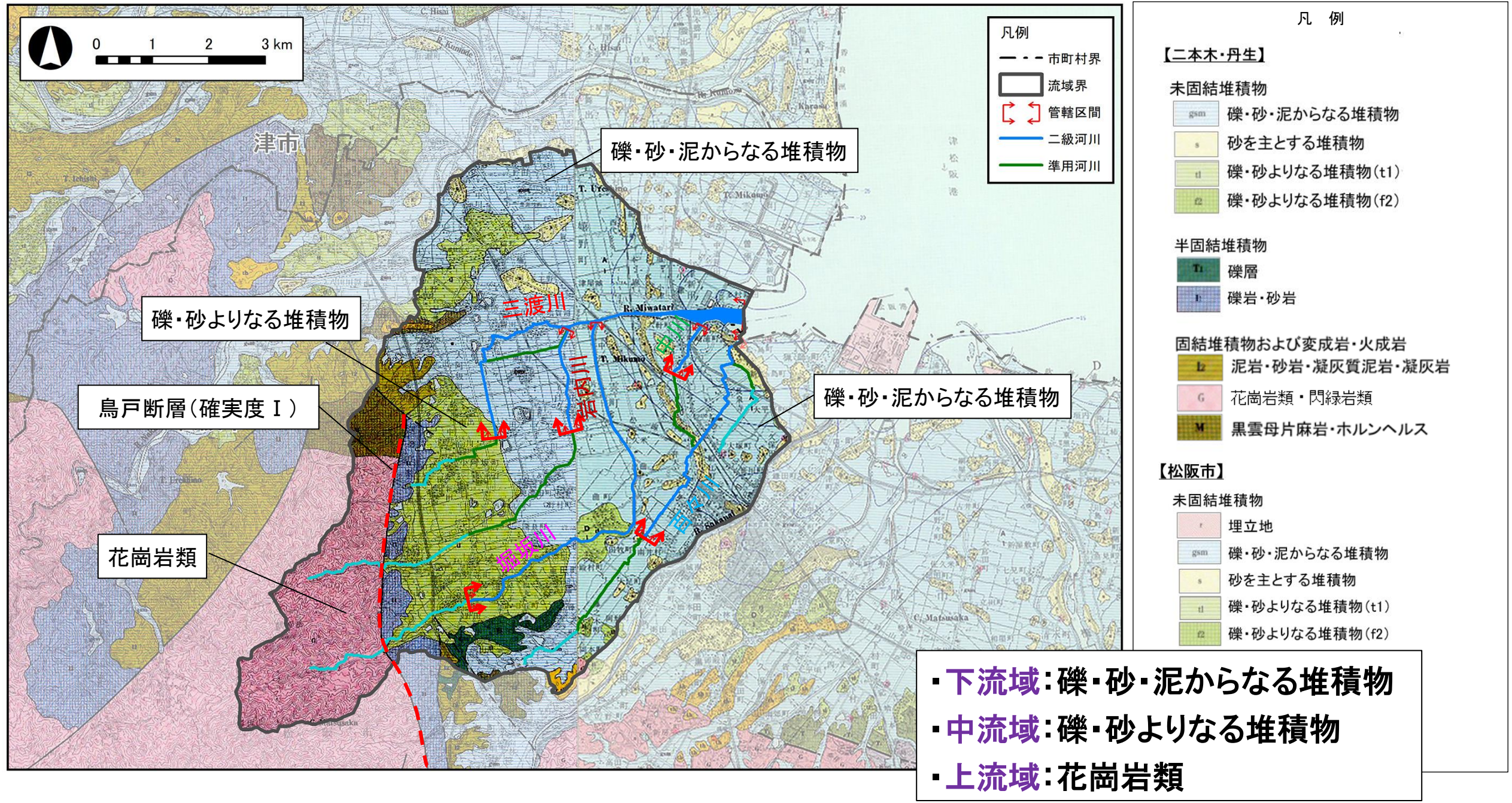
三渡川 三蔵橋下流
(上流部)

- 下流域は三角州及び海岸平野、中流域は谷底平野・氾濫平野で主に形成され、流域の大半を低地が占めている。
- 中流域から上流域にかけては、中位段丘、中間斜面、山頂山腹緩斜面といった比較的緩やかで低い山地で形成され、上流域は急斜面といった急峻な山地で形成されている。

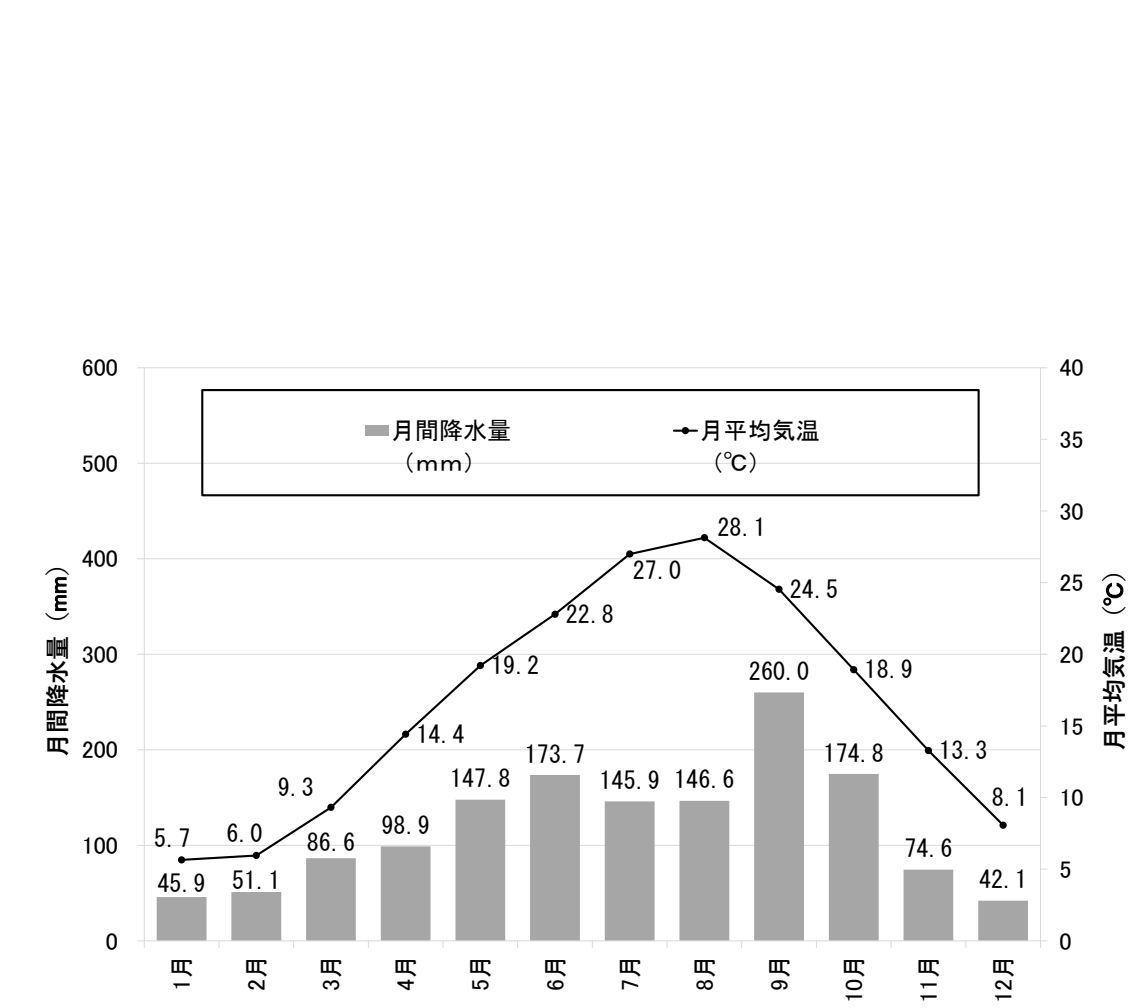


出典：「5万分の1都道府県土地分類基本調査(地形分類図)」「二本木・丹生(平成10年)」「松阪」(昭和63年)

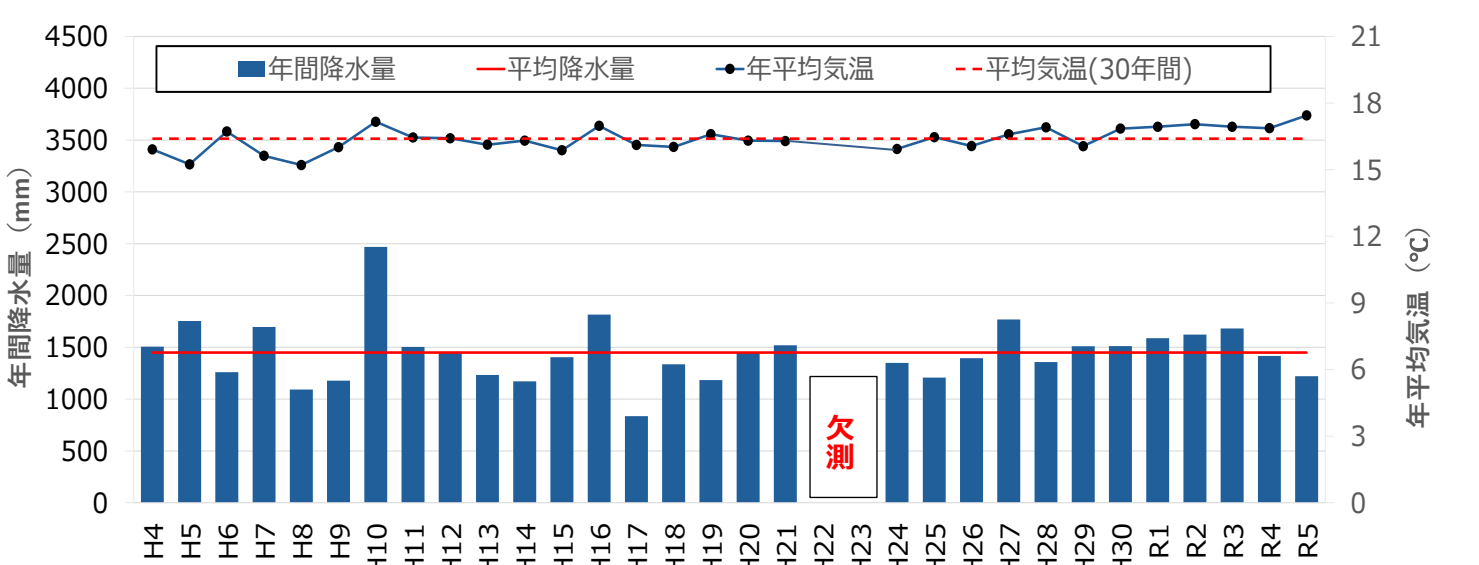
- 流域の表層地質を大別すると、**中下流域**を占める低地部は礫・砂・泥からなる堆積物、**中流から上流**にかけて形成される丘陵地では、礫・砂よりなる堆積物、**山地部**は花崗岩類からなる深成岩で構成されている。
- 山地と段丘の境に「**鳥戸断層**(确实度 I : 活断層であることが确实なもの)」が南北に走る。



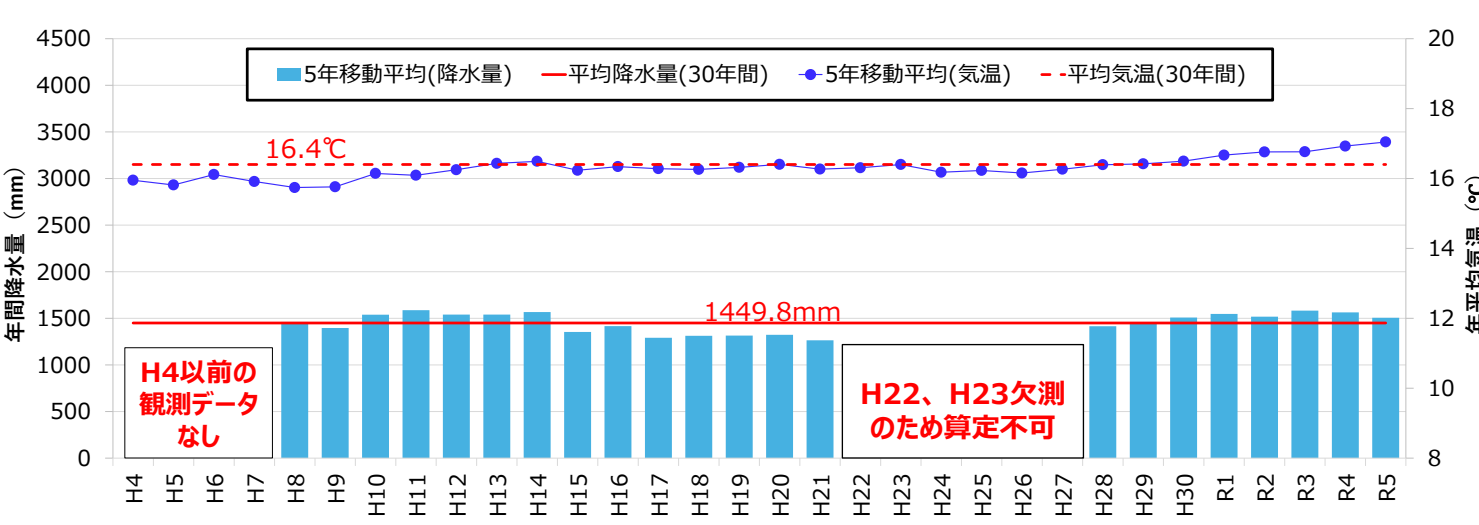
- 松阪市における年間気温・降水量の30年平均値(1994～2023年)は16.4℃、及び1449.8mmで、全国平均の14.5℃、1,606.7mmと比べると、気温は高く、降水量は少ない。
- 経年的な推移を5年移動平均で見ると、近年は気温、降水量ともやや増加傾向である。



松阪市における月別平均気温、降水量
(1992(H4)～2023(R5)年(H22,H23を除く)の平均)



松阪市における年平均気温・降水量の変化



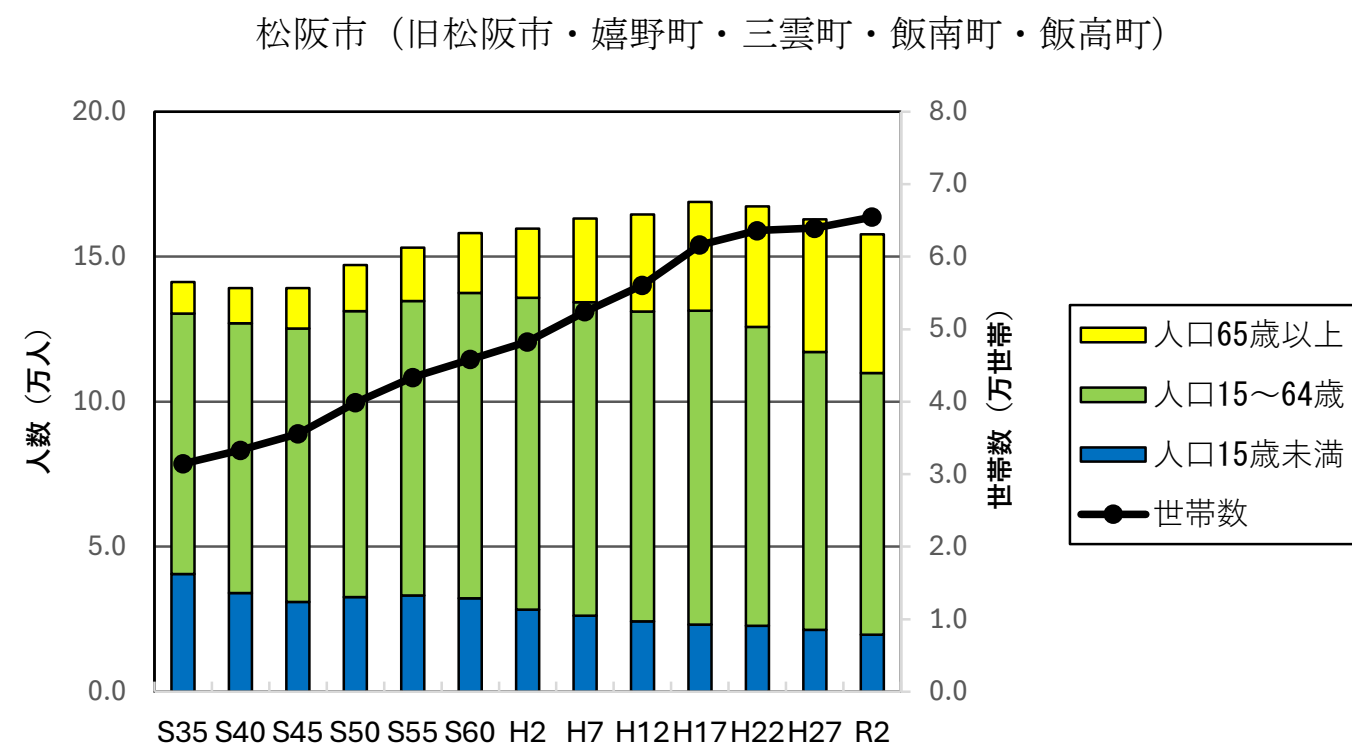
5年移動平均気温、5年移動平均降水量の変化

※平均気温、平均降水量は、1992(H4)～2023(R5)年
(H22,H23を除く)の30カ年平均



- 松阪市の人口・世帯数は、昭和35年度以降から平成17年度まで増加傾向が続いていたが、人口は平成17年度をピークに減少傾向、世帯数は微増傾向がみられる。
- 流域内人口は令和2年度に3万7千人で、平成22年度まで増加傾向がみられたが、その後減少傾向である。世帯数は、令和2年度で約1万5千世帯で、増加傾向である。

【人口・世帯数】

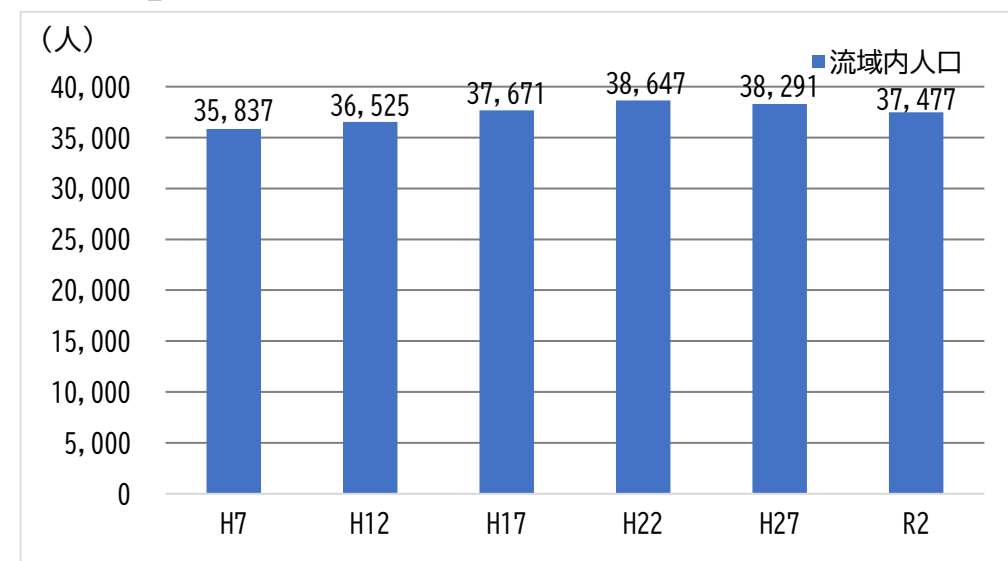


※S35～H12は旧松阪市、嬉野町、三雲町、飯高町、飯南町の合計値を示す。

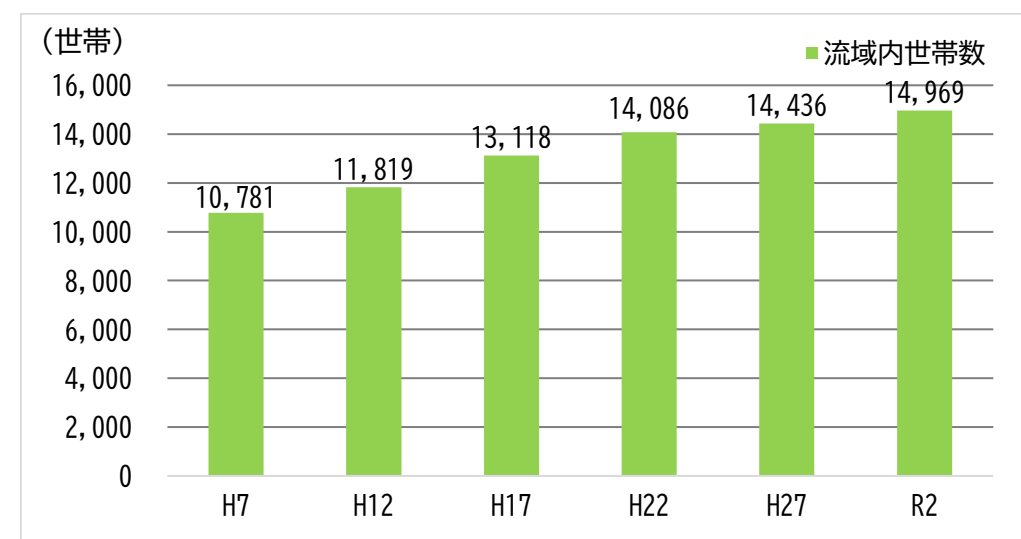
出典：三重県Webサイト みえDataBoX

流域関連市町の人口・世帯数（S35～R2）

【流域内人口】



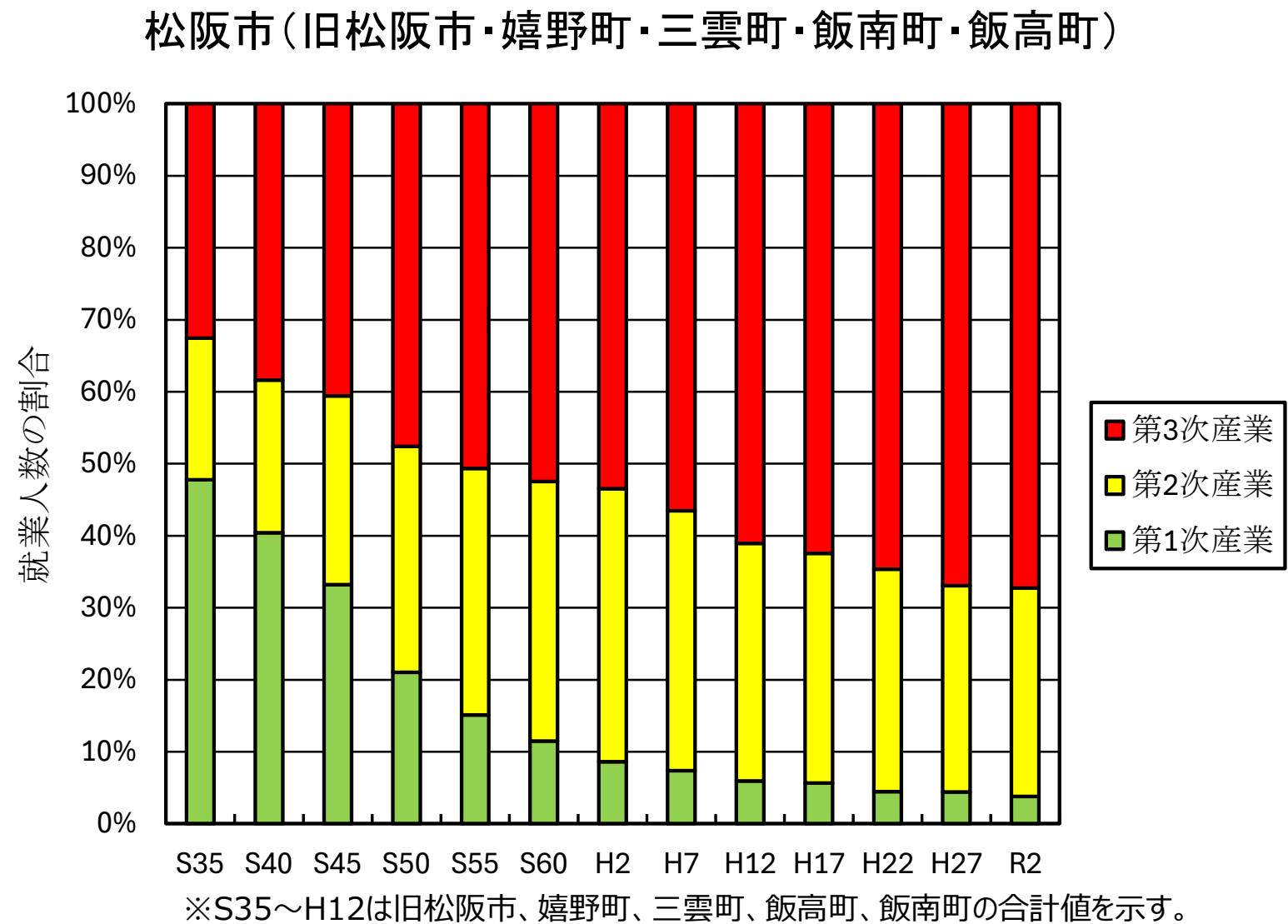
【流域内世帯数】



出典：e-start統計で見る日本 4次メッシュデータ

流域内人口・世帯数（H7～R2）

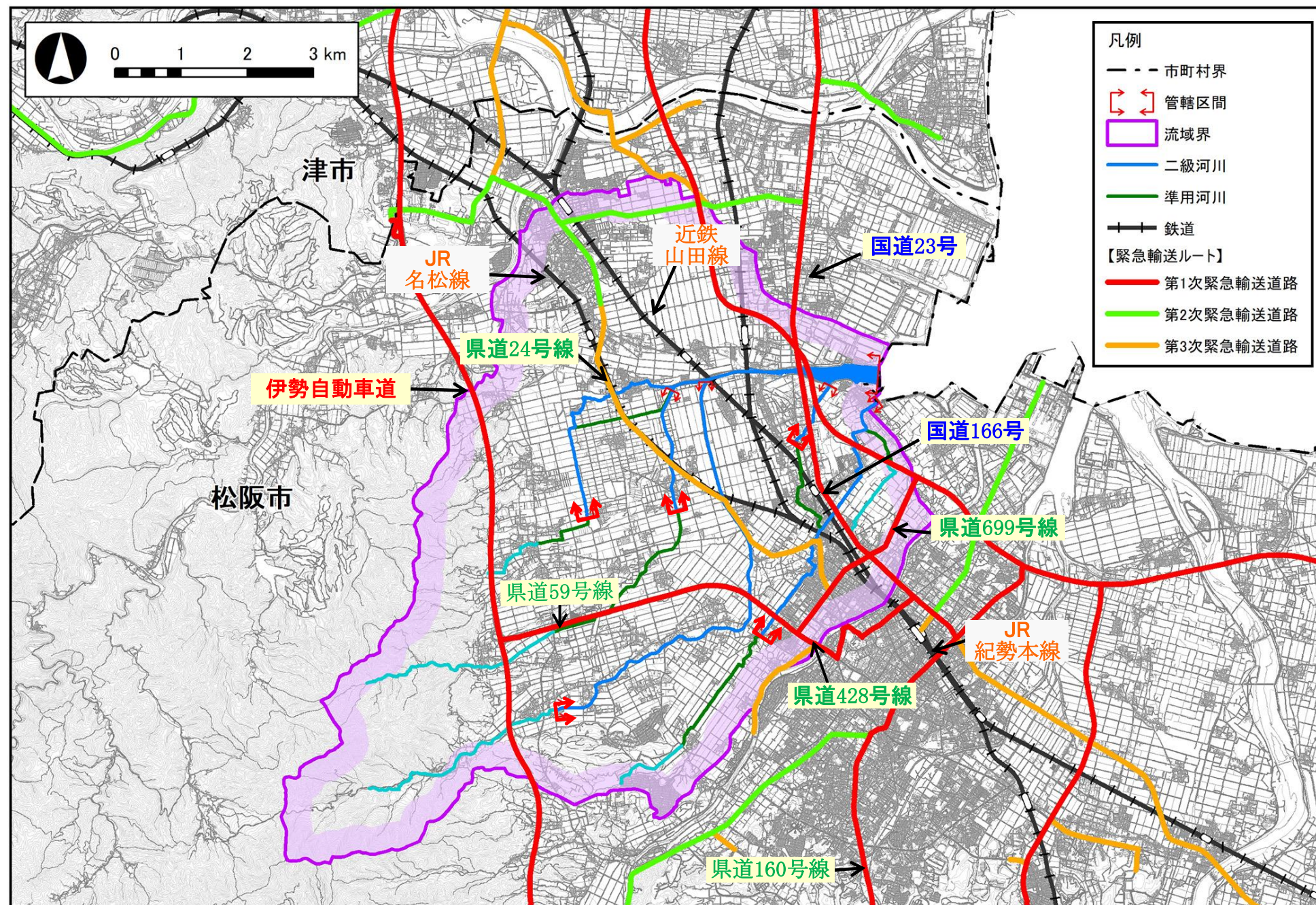
- 第1次産業から第2次産業・第3次産業(サービス業)への移行がみられる。
- 昭和35年に20%であった第2次産業従事者割合は、令和2年で29%、昭和35年に33%であった第3次産業従事者割合は、令和2年で67%まで増加している。



流域関連市町の産業別就業者数の割合 (S35～R2)
資料: 三重県WEBサイト みえDataBoX

出典: 三重県Webサイト 市町(村)累年統計表
産業別従事者数の推移 (S35～R2)

- 流域における主要な交通施設として、伊勢自動車道、国道23号、国道166号等の幹線道路、JR紀勢本線、JR名松線、近鉄山田線などの鉄道が位置しており、多くの橋梁が河川を横過している。



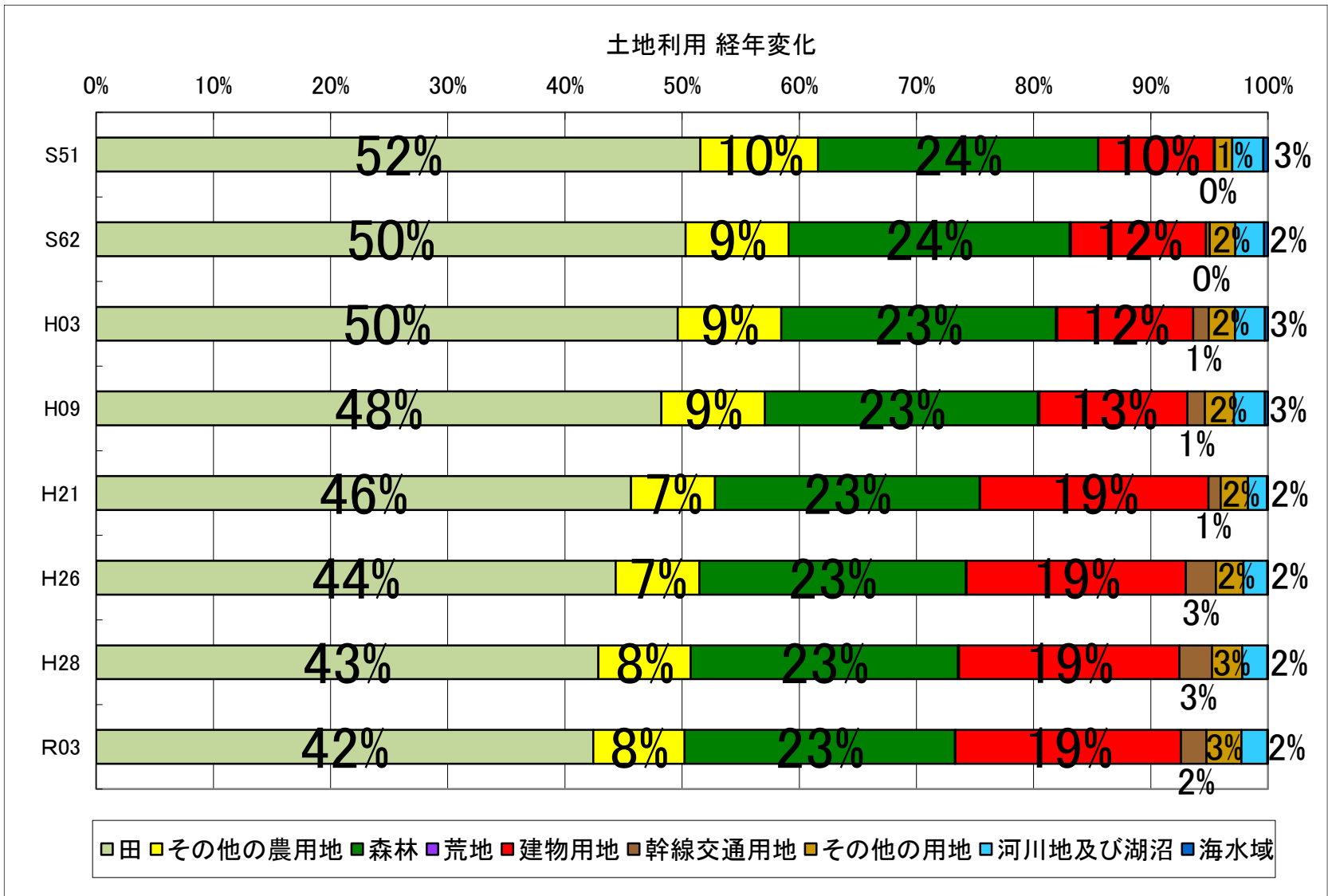
※この地図は、「電子地形図25000（国土地理院）」を加工して作成している。

交通網図

出典：国土数値情報 R2 緊急輸送道路、R4 鉄道

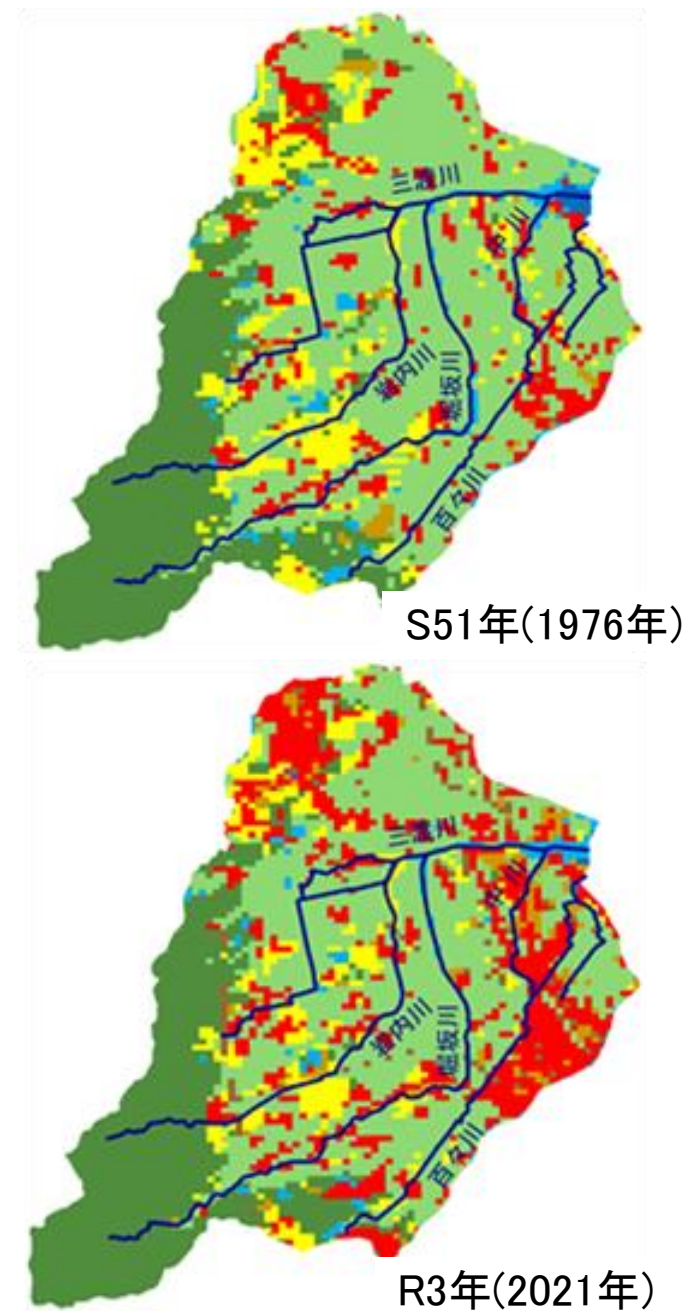


- 流域内の土地利用は、昭和62年以降、「田」、「その他の農用地」、「森林」が減少している一方で、「建物用地」は平成21年時点まで増加傾向が続いているがその後横ばいである。
- 分布域でみると、**百々川**流域で市街地の拡大が顕著である。



流域内における土地利用別の面積割合の変化

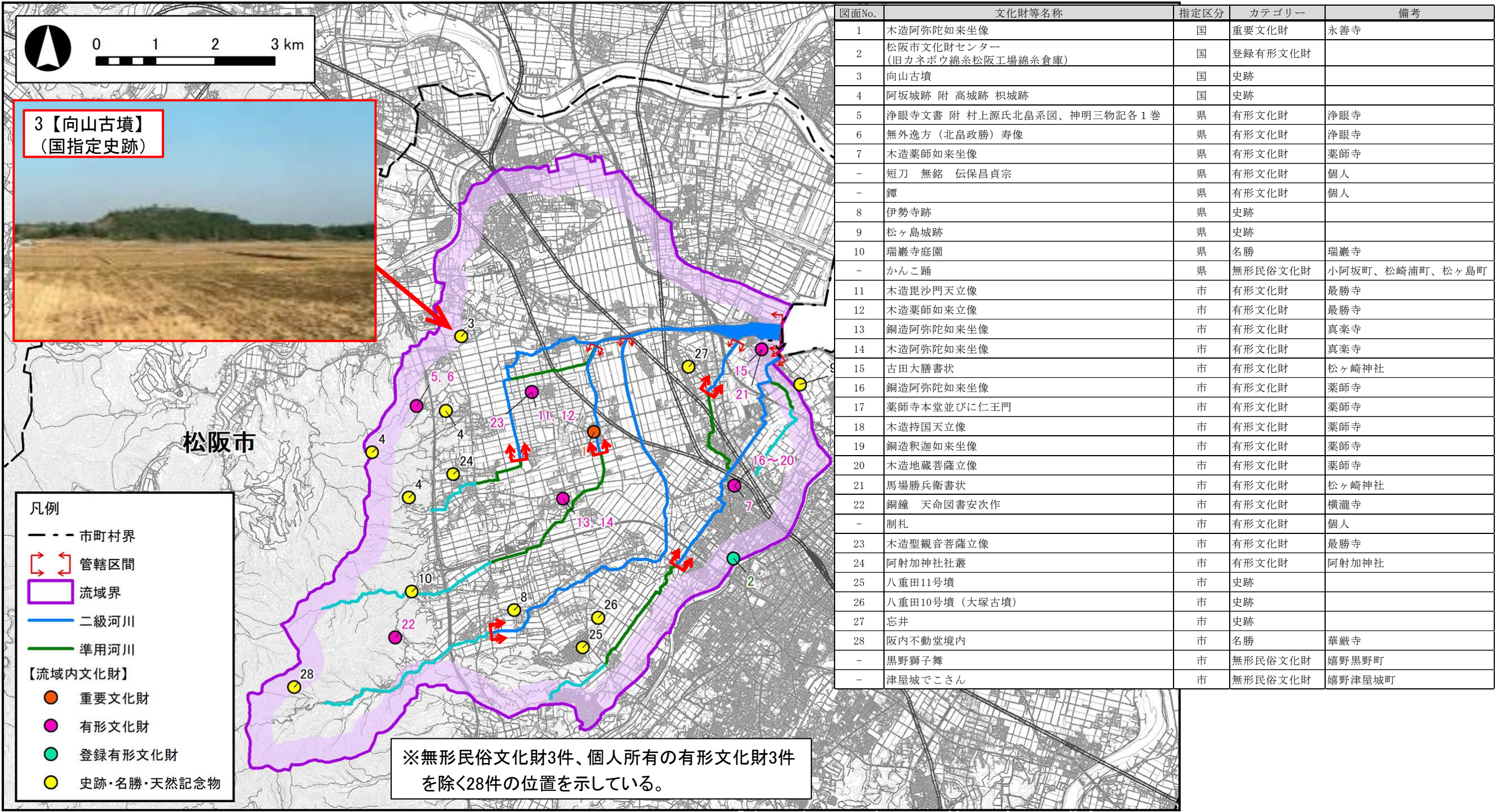
※その他の用地：運動競技場、空港、競馬場・野球場・
学校港湾地区・人工造成地の空地等



土地利用図

出典：国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ

- 流域内における文化財等(国、県、松阪市)として、計34件が挙げられる。
- 向山古墳(むかいやまこふん)は、三渡川上流域の標高50mの丘陵端部頂に位置する前方後方墳で、1975年に国の指定・登録を受けた史跡である。

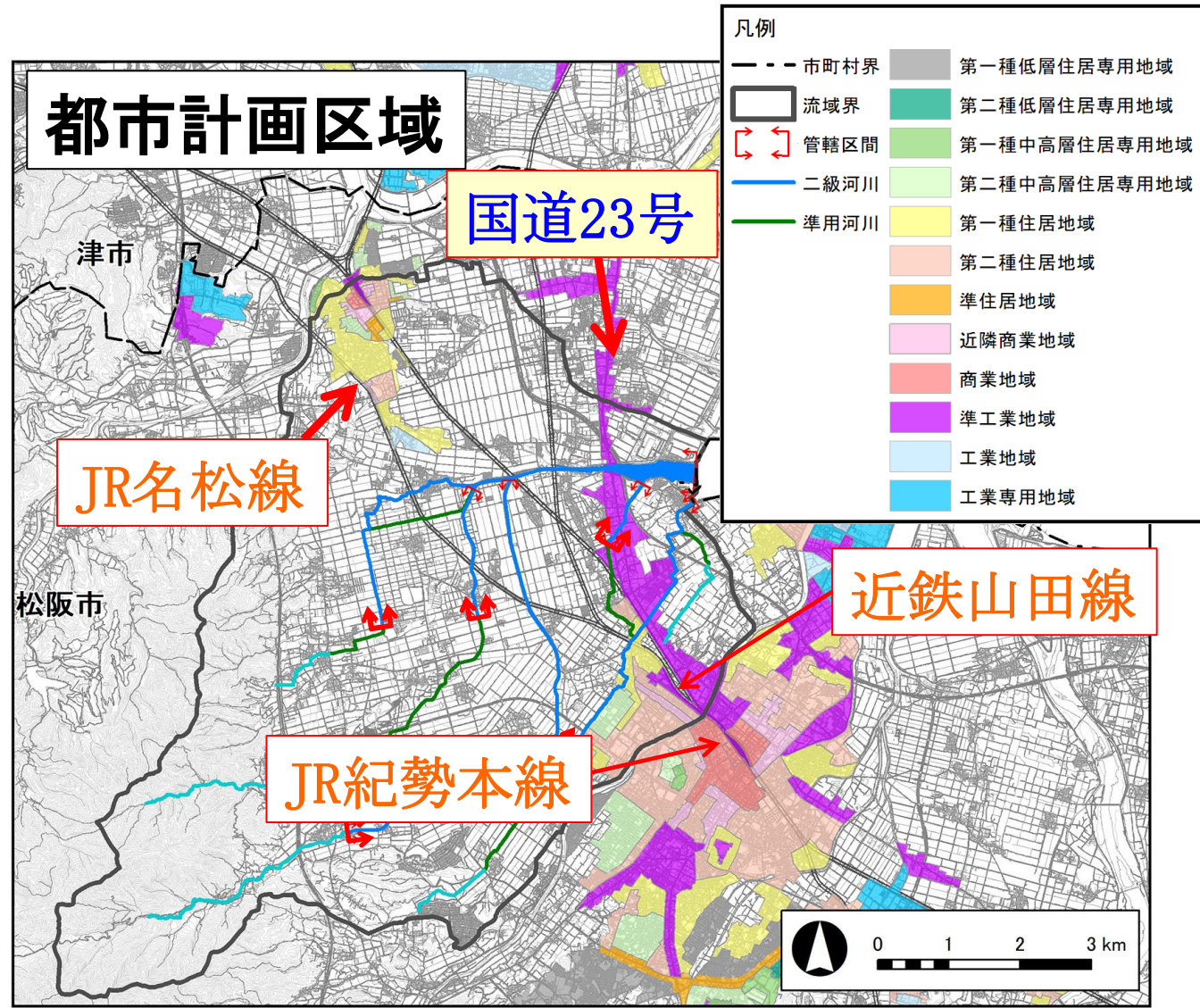


■都市計画区域

- 流域内では、用途地域の設定はわずかであり、**下流域の国道23号**沿線に準工業地域が南北に広がるように設定されている。
- JR・近鉄沿線**には、第一種住宅地域、第二種住居地域、第一種中高層住居専用地域、第二種中高層住居専用地域、準住居地域が密接するように設定されている。

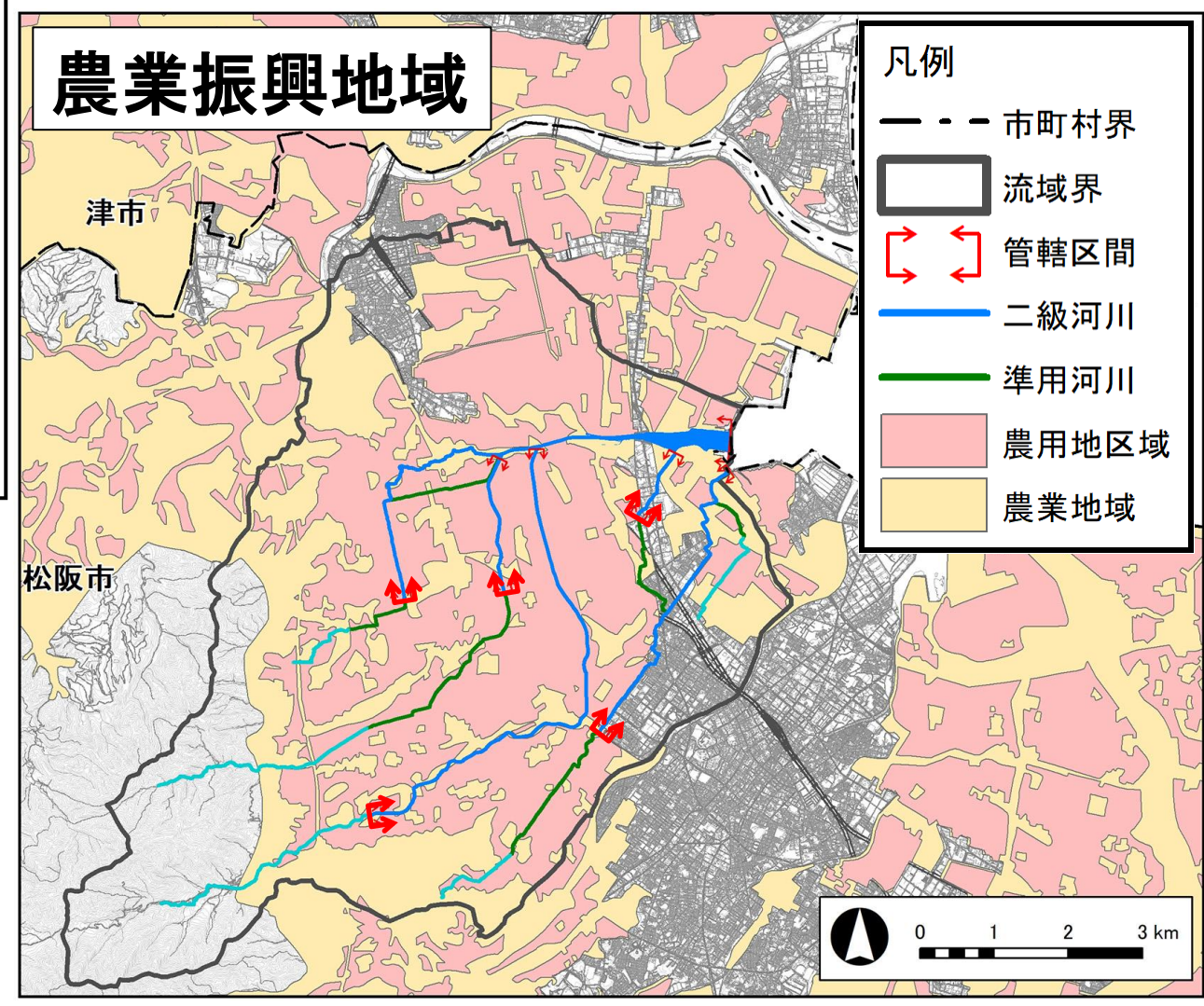
■農業振興地域

- 流域内では、**河口部、丘陵部を除くほぼ全域**が農業振興地域として指定されている。



都市計画区域内の用途地域の指定状況

資料:国土数値情報 用途地域データ(R1)



農業振興地域の指定状況

資料:国土数値情報 農業地域データ(R1)

■自然公園

- ・ **流域西部の山地部**の一部は、「自然公園地域(赤目一志峡県立自然公園)」に指定されている。

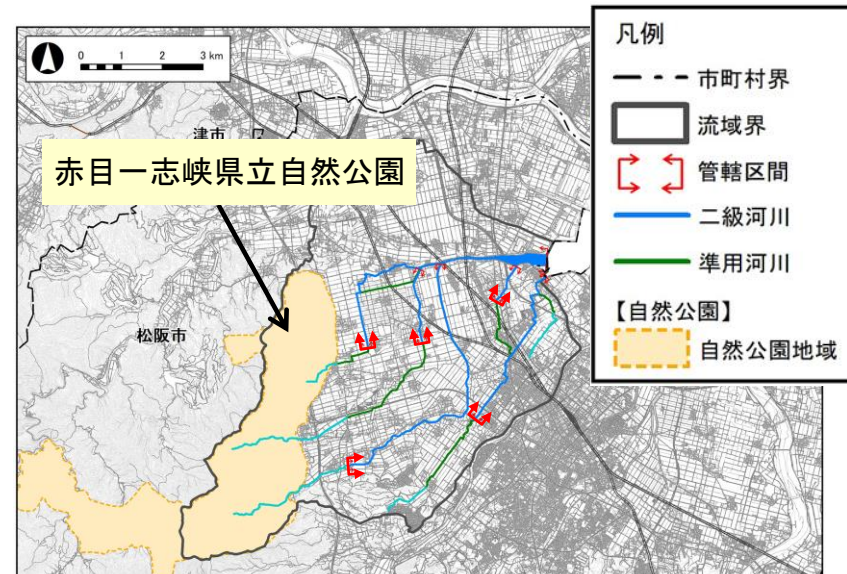
■鳥獣保護区・保安林

- ・ **中流域の低地**の一部は「鳥獣保護区」、**流域西部の山地部**の一部は、「鳥獣保護区」、「保安林」に指定されている。

■土砂災害警戒区域等

- ・ **流域西部の丘陵地**において、土砂災害警戒区域が存在しており、**山地部**においては、土砂災害警戒区域および土砂災害特別警戒区域に指定されている。

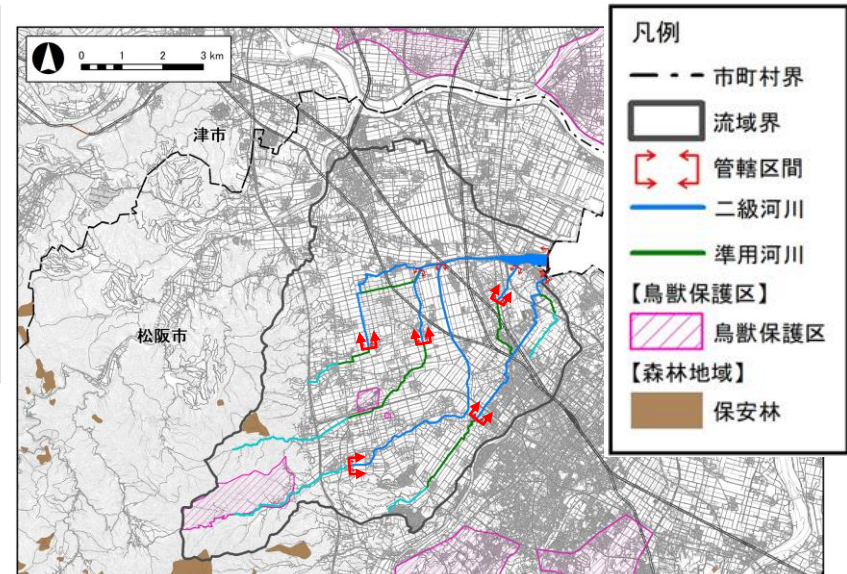
自然公園(自然公園法)



自然公園(自然公園法)の指定状況

出典:国土数値情報
自然公園地域データ、自然保全地域データ(H27)

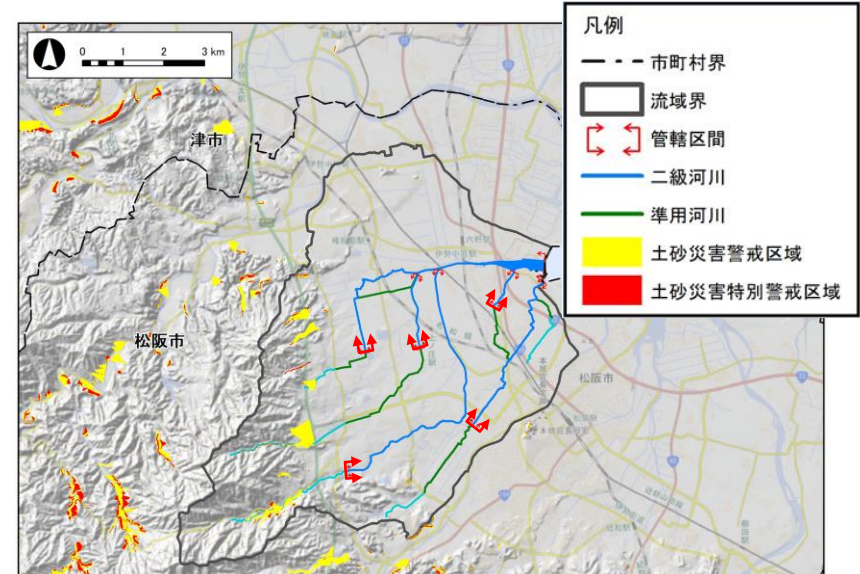
鳥獣保護区、保安林



環境関連法指定状況

出典:国土数値情報 鳥獣保護区データ(H27)

土砂災害警戒区域等



環境関連法指定状況

出典:国土数値情報 土砂災害警戒区域(R5)

目 次

1. 流域の概要

2. 現在の計画 

3. 気候変動への対応方針

4. 河川の現況

5. 治水の現状と課題

6. 利水の現状と課題

7. 環境の現状と課題

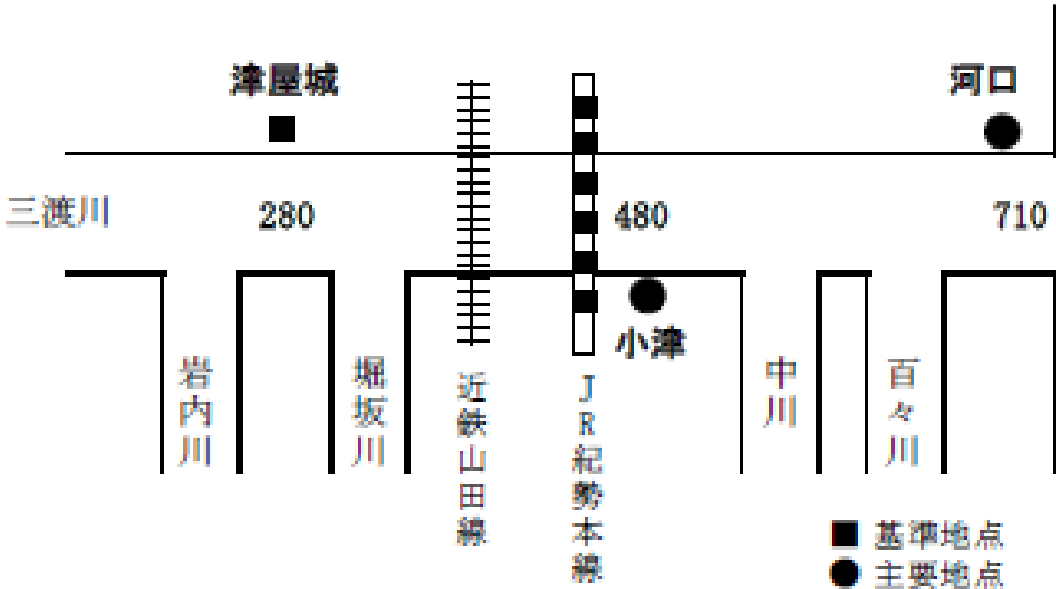
8. 今後の進め方

- 河川整備基本方針：30年に1度の降雨による洪水を対象とし、基準地点津屋城(つやじょう)にて計画高水流量280m³/sとしている。
- 河川整備計画：三渡川は、下流の市街地区間(河口～近鉄山田線)は10年に1度、中上流は5年に1度の降雨による洪水を対象とし、基準地点津屋城(つやじょう)にて計画高水流量170m³/sとしている。百々川は、10年に1度の降雨による洪水を対象としている。

河川整備基本方針

基本高水のピーク流量等一覧表

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量 (m ³ /sec)	洪水調節施設による調節流量 (m ³ /sec)	河道への配分流量 (m ³ /sec)
三渡川	津屋城	280	—	280



計画高水流量配分図

平成20年9月30日策定

河川整備計画

基本高水のピーク流量等一覧表

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量 (m ³ /sec)	洪水調節施設による調節流量 (m ³ /sec)	河道への配分流量 (m ³ /sec)
三渡川	津屋城	170	—	170

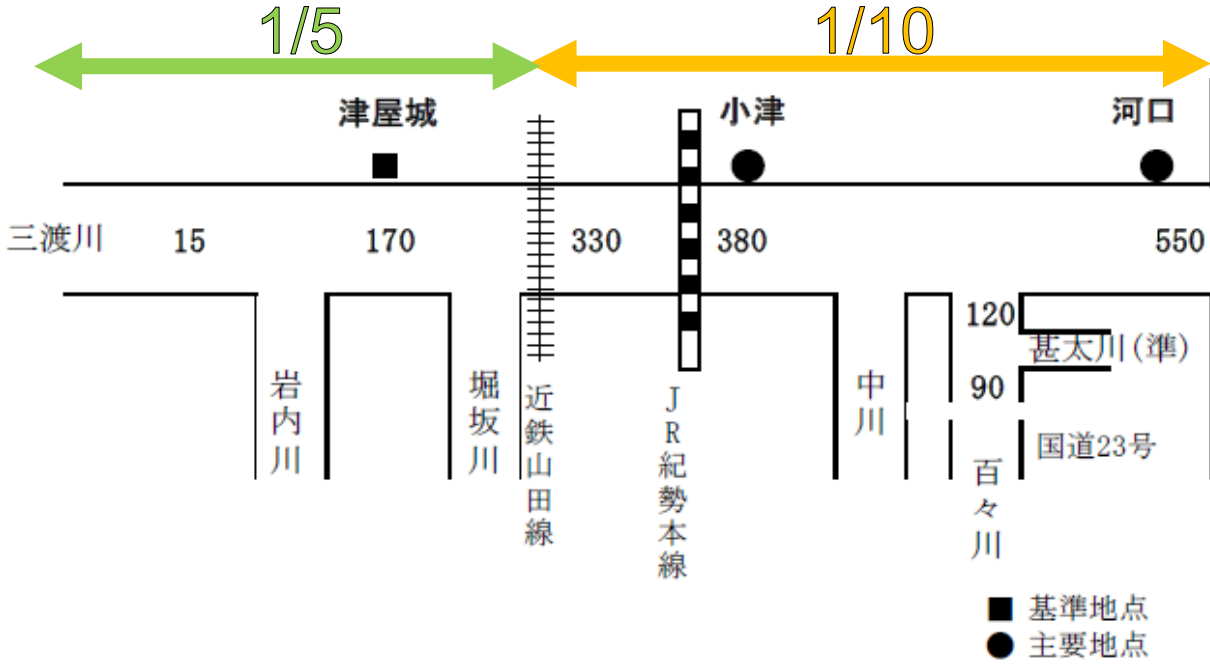


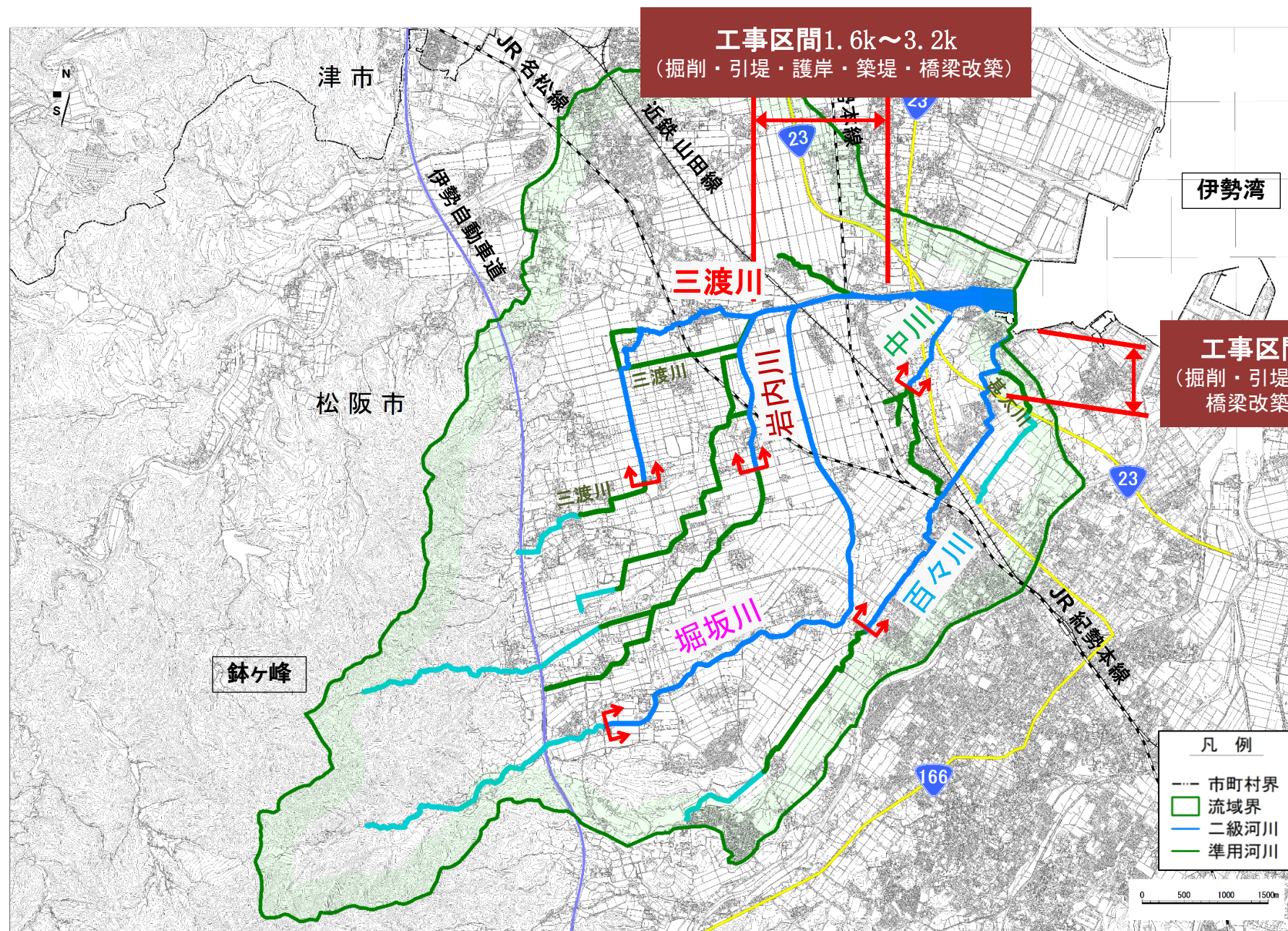
図 3-1：流量配分図

平成21年1月9日策定

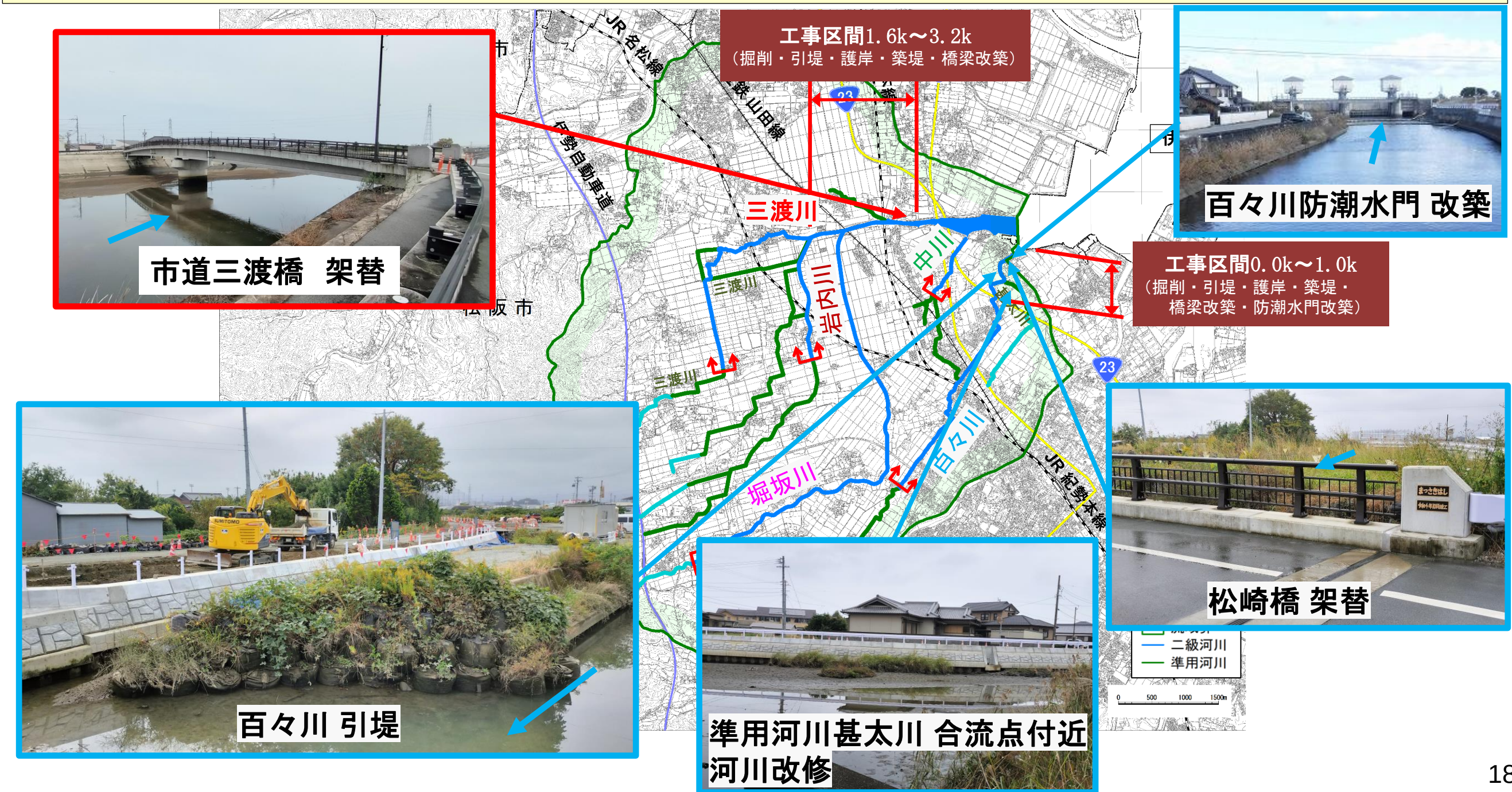
■現計画の施工内容（河川整備計画）



- **三渡川**：河川工事区間は1.6k（市道三渡橋下流）～3.2k（岩内川合流点付近）とし、掘削・引堤・護岸・築堤・橋梁改築を実施している。
- **百々川**：河川工事区間は0.0k（河口）～1.0k（国道23号）とし、掘削・引堤・護岸・橋梁改築・防潮水門の改築を実施している。



- **三渡川**：工事区間起点付近である市道三渡橋の橋梁架替は平成31年に完了している。
現在は市道三渡橋より上流を河道掘削している。
- **百々川**：河口にある百々川防潮水門の改築は平成25年に完了している。
松崎橋の橋梁架替は令和4年に完了しており、現在引堤を実施している。
また、**準用河川甚太川**合流点付近を改修している。

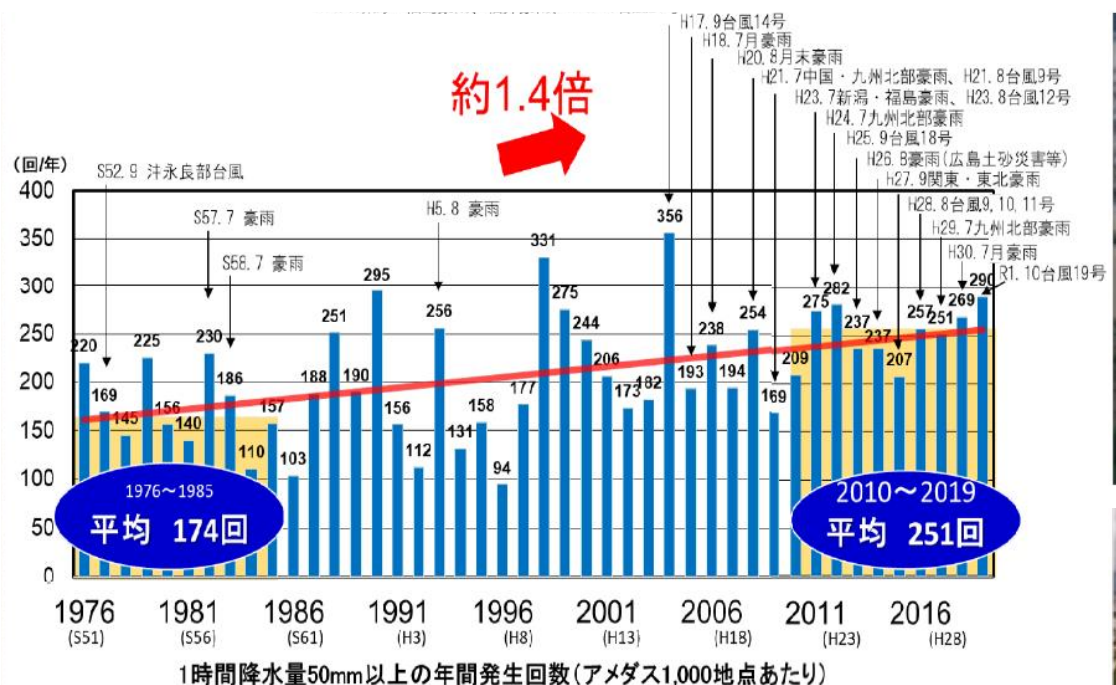


目次

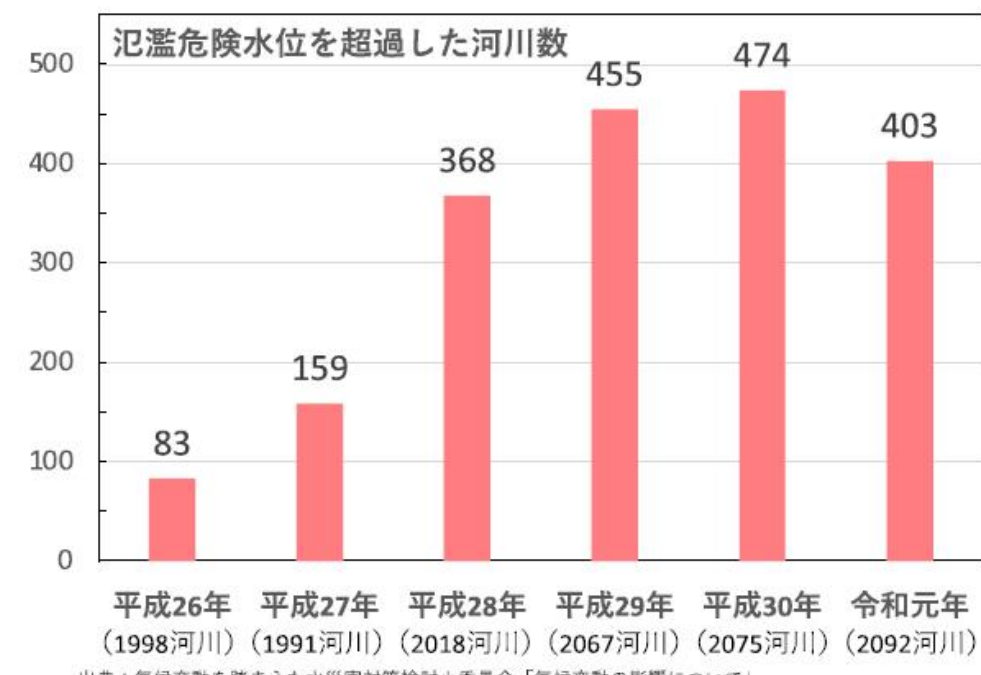
1. 流域の概要
2. 現在の計画
- 3. 気候変動への対応方針** 
4. 河川の現況
5. 治水の現状と課題
6. 利水の現状と課題
7. 環境の現状と課題
8. 今後の進め方

■近年の水災害の現状

- 近年、全国的に1時間の降水量が50mmを超える雨が増加している傾向にある。約30年前に比べると、約1.4倍に増加しており、今後もさらに増加すると予測されている。
- 雨の増加に伴い、避難を開始する目安となる「氾濫危険水位」を超える洪水の発生回数も増加しており、全国的に大きな被害が発生している



出典：気象庁資料より作成（気象庁が命名した気象現象等を追記）
(河川数)





- 国の「気候変動を踏まえた治水計画に係る技術検討会」による提言では、すべての河川整備基本方針を直ちに見直す必要性はないものの、基本方針流量を超過する洪水が発生した場合や河川整備が進捗し、新たな段階に進む場合には、気候変動の影響を踏まえて河川整備基本方針の見直しを行うべきとされている。

気候変動を踏まえた治水計画のあり方 提言(令和3年4月改訂)



(1-1) 河川整備基本方針の見直し

- 目標とする治水安全度を温暖化が進行した気候下でも確保するためには、基準地点における基本高水のピーク流量について、あらかじめ気候変動による影響を踏まえた降雨の予測計算結果等も活用し、将来の気候状況を適切に想定して設定することが基本となる。
- 現在の河川整備はまだ整備途上であり、多くの河川においては河川整備計画の目標は河川整備基本方針の目標と比べると相当低いところに留まっていることから、まずは速やかに現在の河川整備基本方針に向けた整備を加速することを優先させる必要がある。
- 気候変動予測には不確実性があり、予測結果は将来見直される可能性もあるものの、河川整備基本方針についても順次見直すべきである。具体的には、河川整備基本方針策定後に大規模な洪水が発生して基本高水のピーク流量を超過した場合や、河川整備計画を検討する過程の中で、洪水調節施設と河道の配分流量を変更する必要がある河川等から、順次、降雨量変化倍率を活用すること等により、気候変動を踏まえた基本高水を設定するべきである。

- 国の「気候変動を踏まえた治水計画に係る技術検討会」による提言では、河川整備計画については、整備計画の早期達成を目指すとともに、合わせて気候変動の影響も考慮した計画に見直していく必要があるとされている。

気候変動を踏まえた治水計画のあり方 提言(令和3年4月改訂)

(1-2) 河川整備計画の目標の見直し

- 河川整備基本方針の実現に向けて、今後 20～30 年間の河川整備内容を定める河川整備計画においては、多くの一級河川で過去（主に戦後）に発生した最大の豪雨が発生しても被害の発生を防止することを目標にしている。しかし、河川整備の目標としては、豪雨において観測もしくは算定された流量を目標とする現在の方式では、気候変動によって実質的な目標安全度が年々低下していることを意味している。
- 一方、現在の河川は整備途上であり、多くの河川において河川整備計画の目標は河川整備基本方針の目標安全度と比べると相当低いところにとどまっていることから、まずは速やかに現在の河川整備計画の早期達成を目指すとともに、合わせて河川整備計画を気候変動の影響も考慮した計画に見直していく必要がある。
- 河川整備計画を見直す場合、現在の河川整備計画において目標とする洪水に相当する治水安全度を、河川整備計画の完成目標とする時点においても確保することを目指すべきであり、その際には降雨量変化倍率を用いるなど適切な目標設定を行う必要がある。



- ・ 気候変動を考慮した計画雨量の検討方針
→「気候変動を踏まえた治水計画に係る技術検討会」による提言や、国の見直し事例では、気温2℃上昇時の降雨量変化倍率を1.1倍とし、降雨データは2010年までのデータを使用している
→以上より、三重県においても**2010年までの降雨データを使用し、1.1倍した雨量を計画に用いる**こととする。

気候変動を踏まえた治水計画のあり方 提言

表-2 降雨量変化倍率

		降雨継続時間 12時間以上	降雨継続時間 3時間以上12時間未満	降雨継続時間 3時間未満
4℃上昇		1.3	1.4	—
	北海道、九州北西部	1.4	1.5	—
	その他の地域 (沖縄含む)	1.2	1.3	—
2℃上昇		1.1	1.1	1.1
	北海道	1.15	1.15	1.15
	その他の地域 (沖縄含む)	1.1	1.1	1.1

【適用範囲】

- ・ 4℃上昇時における降雨継続時間 12 時間未満の値は、3 時間未満では適用できない。
- ・ 雨域面積 100km² 以上について適用する。ただし、100km² 未満の場合についても降雨量変化倍率が今回設定した値より大きくなる可能性があることに留意しつつ適用可能とする。
- ・ 年超過確率 1/200 以上の発生頻度の降雨を対象とする計画に適用する。

【留意事項】

- ・ 降雨量変化倍率は、現在気候に対する将来気候の状態を表す。なお、4℃上昇時の降雨量変化倍率は、21 世紀末時点の将来気候であり、2℃上昇時の降雨量変化倍率については、RCP2.6 では 2040 年頃以降の気温上昇が横ばいとなることから、2040 年以降の値として適用可能。

【計算条件】

- ・ 現在気候の実験期間は、d4PDF(5 km,SI-CAT)が 1980～2011 年（中間年 1995 年）、d4PDF(5 km,yamada)が 1951～2010 年（中間年 1980 年）であり、中間年でみると 15 年の差があるが、現在の治水計画では主に戦後以降のデータを対象としているため、d4PDF(5 km,yamada)の実験期間である 1951～2010 年を基準とする。なお、1951～1980 年を基準とすると、d4PDF(5 km,SI-CAT)の降雨量変化倍率は約 0.02 倍低く評価されているが、それも考慮した上で上表のと

出典:「気候変動を踏まえた治水計画のあり方」提言
(令和3年4月改訂)国土交通省
(https://www.mlit.go.jp/river/shinngikai_blog/chisui_kentoukai/index.html)



- ・ 気候変動の影響を考慮した河川整備基本方針・河川整備計画の見直しは、策定から年数が経過し、河川整備が進捗した河川であることに加え、洪水の規模に影響する地形的条件を勘案して以下の6河川を選定した。
- ・ 選定した河川の中で、どの河川から見直しを行うかは、詳細な事業の進捗状況やその時点での社会情勢を見ながら判断を行う。

水系名	整備計画／ 都道府県策定日	整備計画／ 整備対象河川	市町	経過年数 (R4末時点)	流域面積 (km2)	山地比率 (%)	築堤区間長 (m)	築堤区間の 宅地工場等比率 (%)
アノウ 安濃川	平成15年5月13日	安濃川	津市	19	110.7	52%	17,500	14%
イワタ 岩田川	平成15年5月13日	岩田川、三泗川		19	32.6	36%	5,100	12%
ミタキ 三滝川	平成18年1月17日	三滝川	四日市市 菰野町	17	57.4	45%	8,900	30%
カイゾウ 海蔵川	平成18年1月17日	海蔵川		17	36	15%	10,000	19%
イナベ 員弁川	平成20年12月26日	員弁川	桑名市 いなべ市 四日市市 東員町 朝日町 川越町 菰野町	14	264.9	50%	26,200	21%
ミワタリ 三渡川	平成21年1月9日	三渡川、百々川	松阪市	14	55.1	18%	3,500	29%

着手中

今回着手

目次

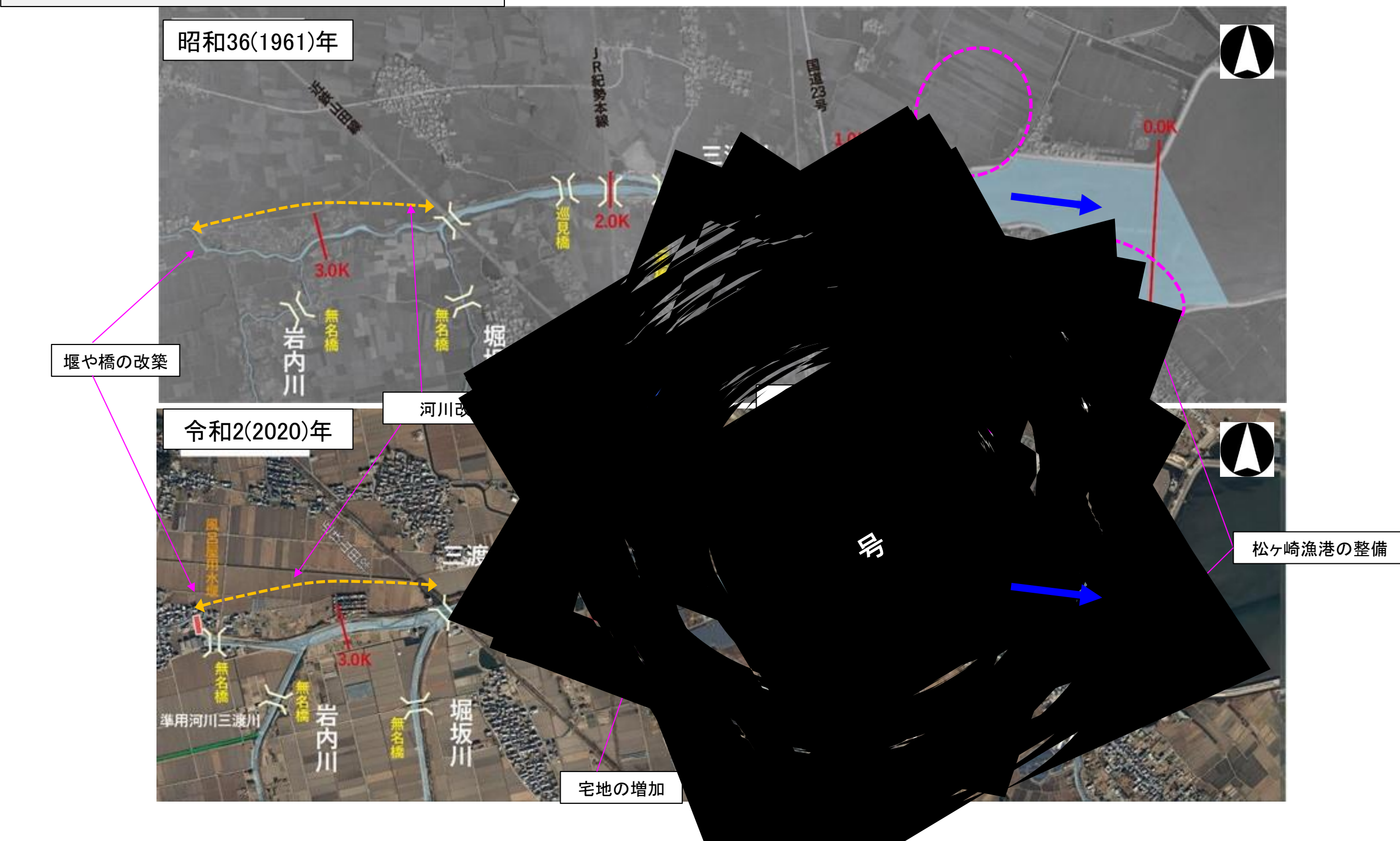
1. 流域の概要
2. 現在の計画
3. 気候変動への対応方針
- 4. 河川の現況** 
5. 治水の現状と課題
6. 利水の現状と課題
7. 環境の現状と課題
8. 今後の進め方

■河道の変遷（三渡川 下流区間（感潮域）～中流区間）



- ・ 河口では漁港の整備や卸売市場、三渡川を横断するように国道23号が整備されている。
- ・ 近鉄山田線から上流で、河川改修が行われている。

三渡川 下流区間(感潮域)～中流区間



■河道の変遷（三渡川 上流区間）

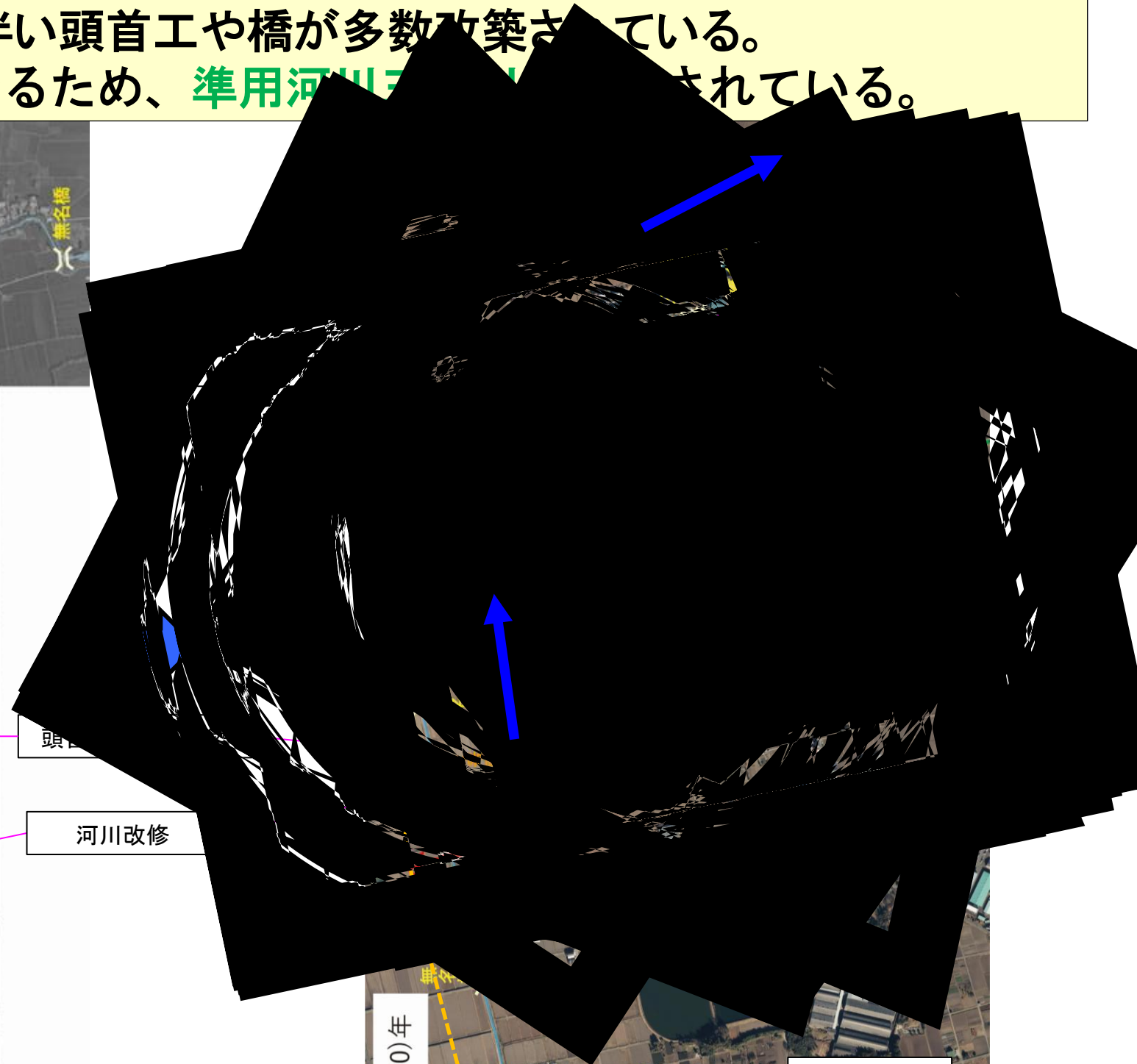
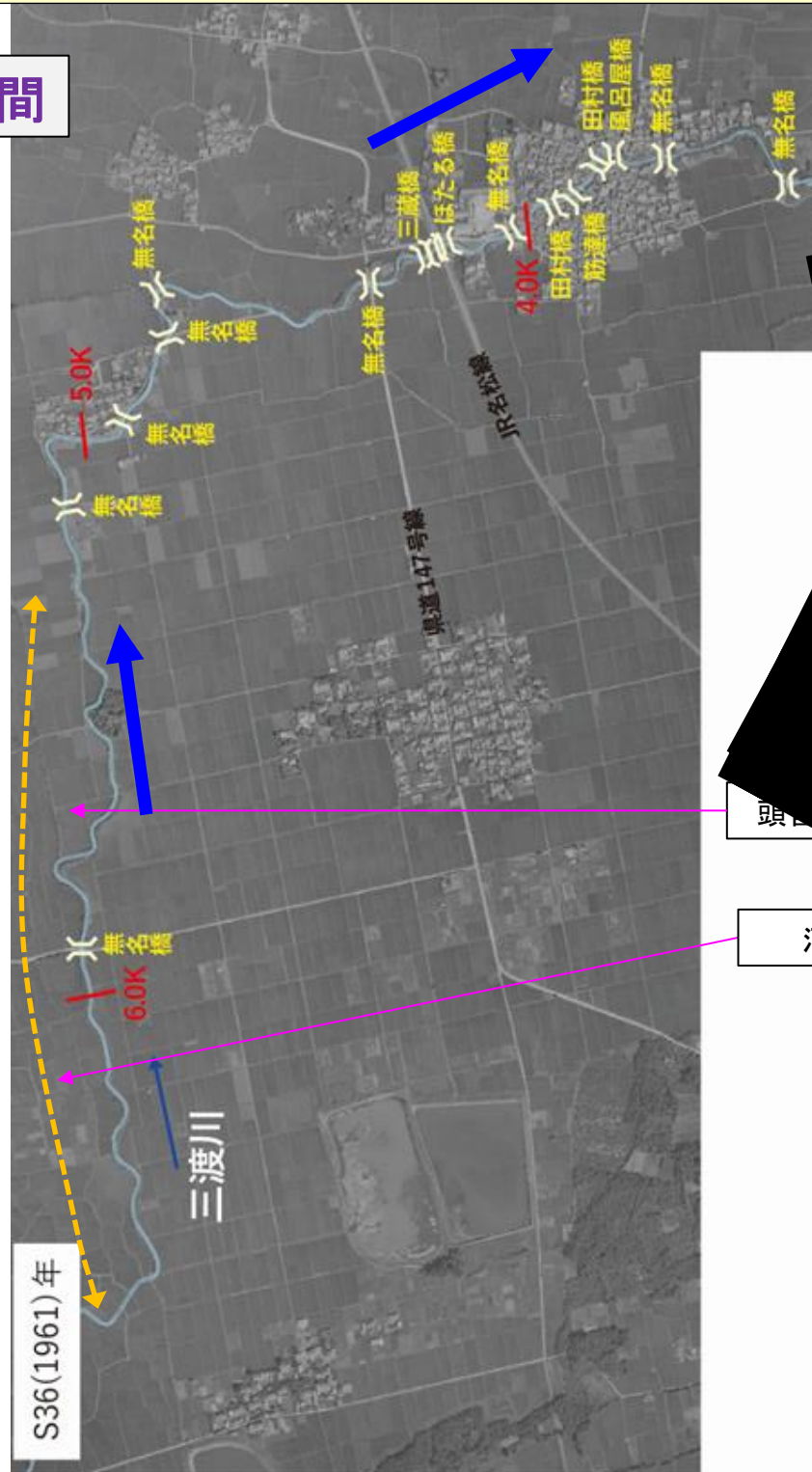


- 5km付近から上流で、河川改修が行われている。
- 河川改修された区間で、河川改修に伴い頭首工や橋が多数改築されている。
- 上流の人家連坦地区への流入を避けるため、準用河川法が適用されている。

三渡川 上流区間



昭和36(1961)年



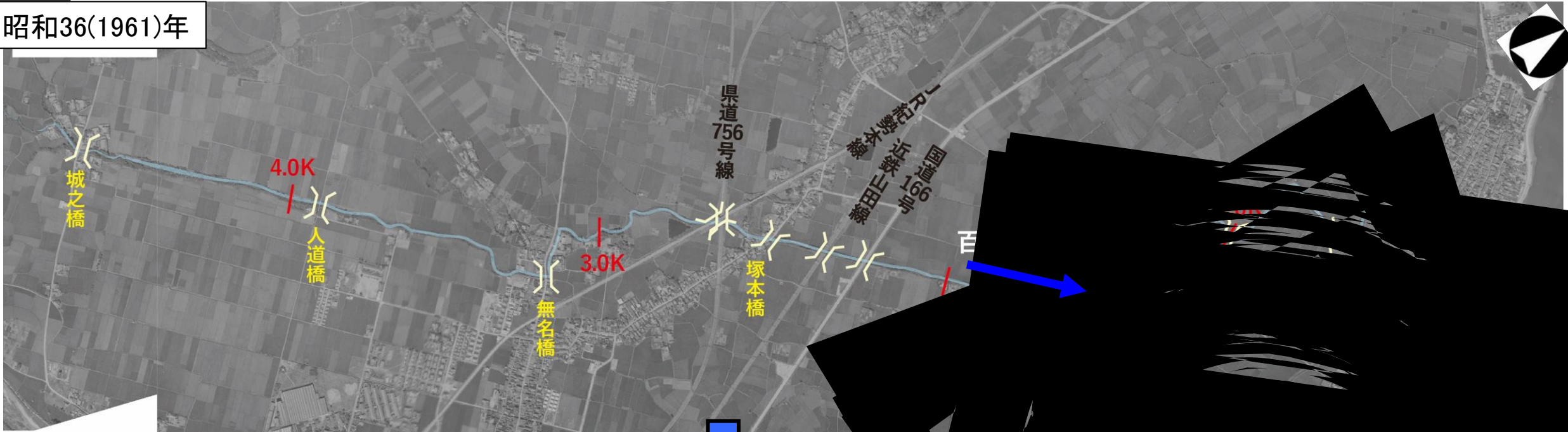
河道の変遷（百々川 全区間）



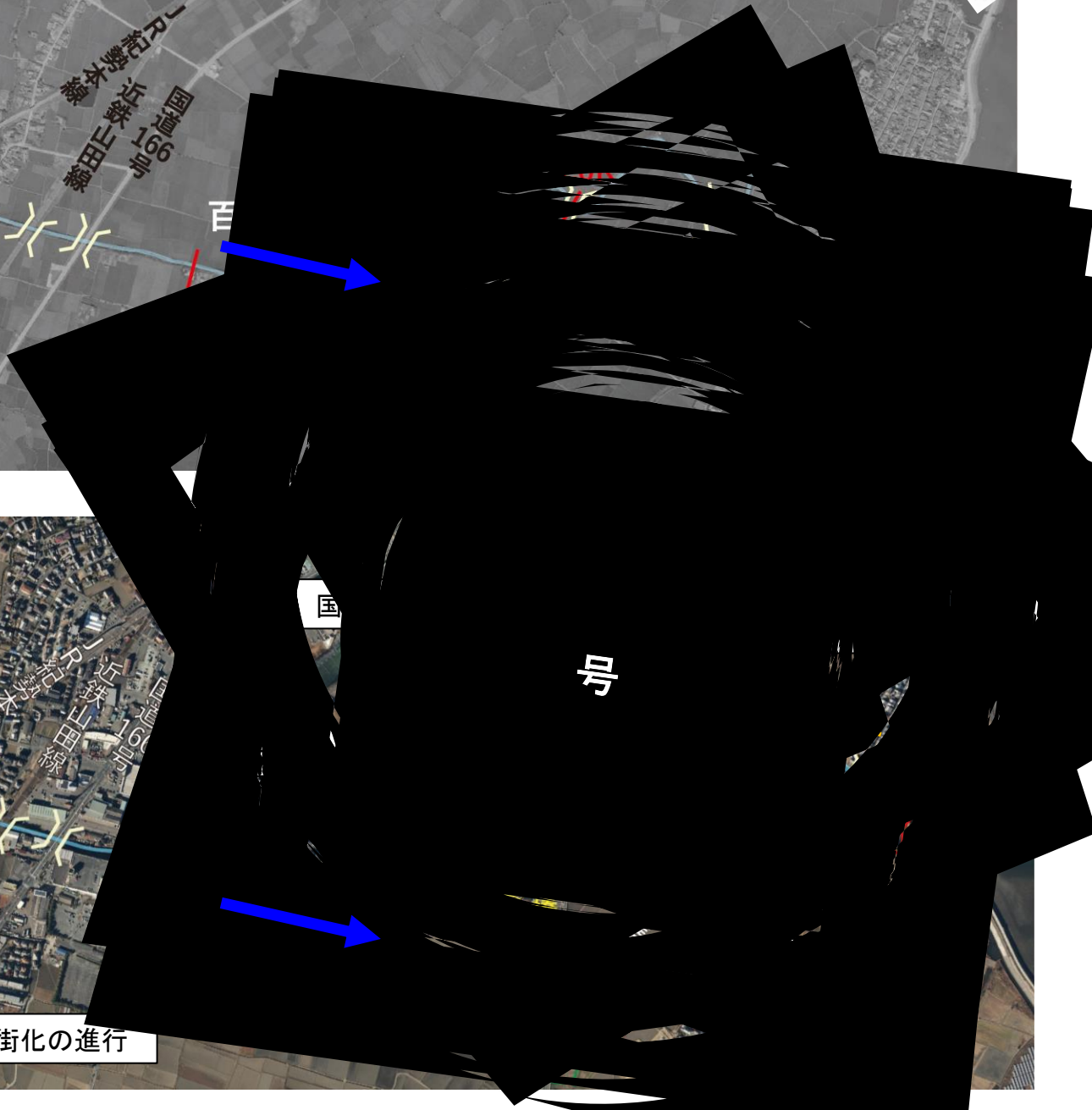
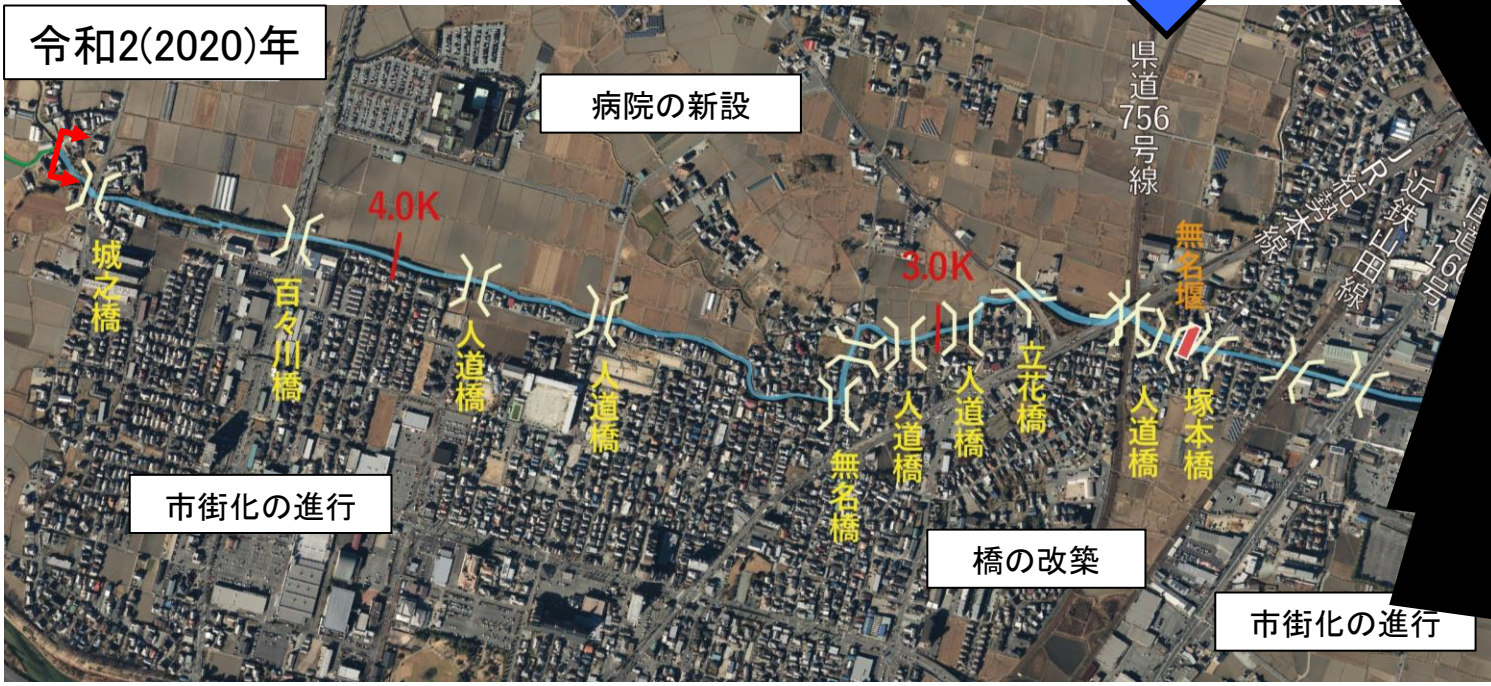
- 流域内は全区間市街化の進行が著しいことや国道23号が整備されている。
- 河口付近は現在河川改修が行われている。

百々川

昭和36(1961)年



令和2(2020)年



河道の変遷（堀坂川 下流区間）



- 下流区間全てで河川改修が行われている。
- 圃場整備が著しく市街化の進展は少ない。県道59号線等やや架橋が増えている。

堀坂川 下流区間

昭和36(1961)年



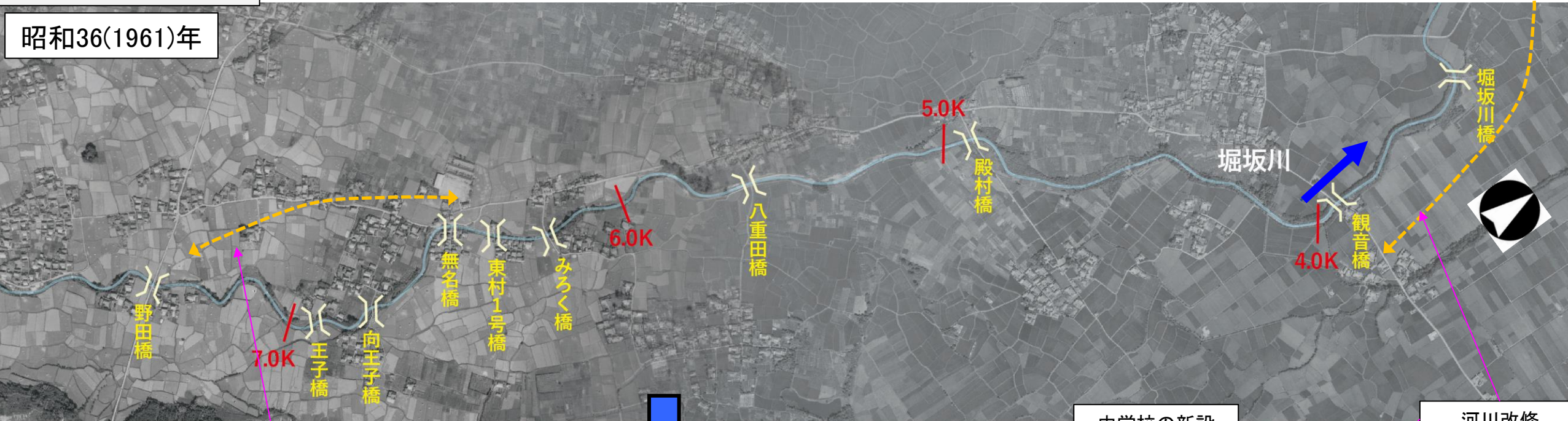
河道の変遷（堀坂川 上流区間）



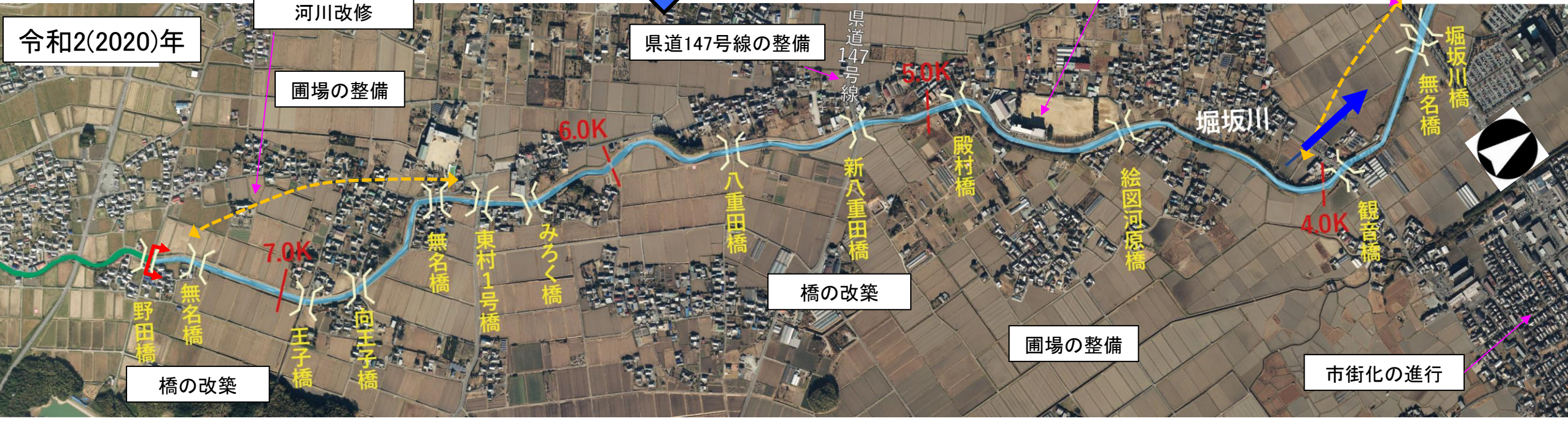
- 下流域と同様に圃場整備が進められている。一部に市街化がみられるが限定的
- 一部を除き線形の変化は少なく河川改修は少ない。道路橋の架橋も限定的。

堀坂川 上流区間

昭和36(1961)年



令和2(2020)年

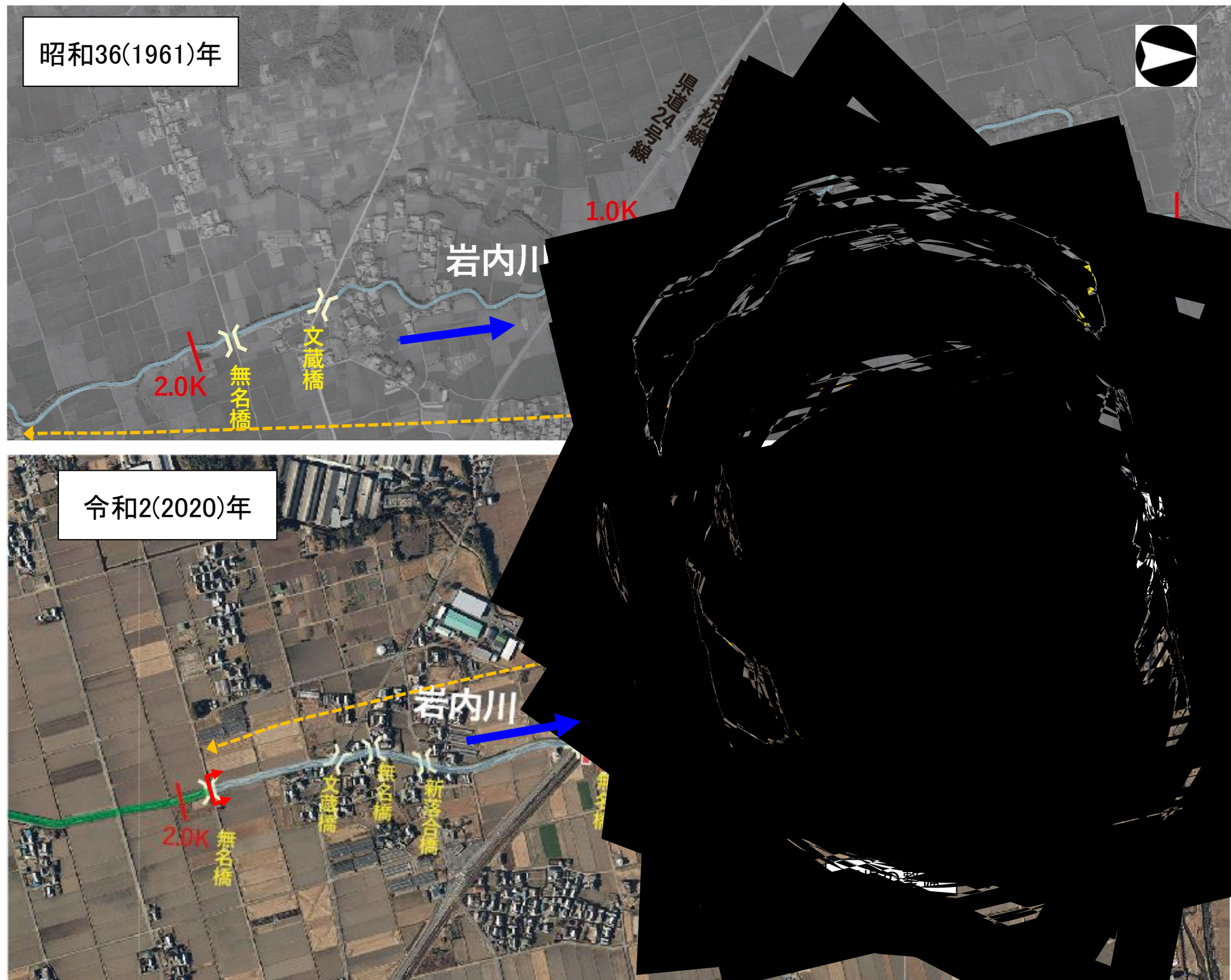


■河道の変遷（岩内川 全区間）



- 河川改修が行われ、下流域は準用河川三渡川と並走している。
- 流域内の圃場整備が進められている。

岩内川



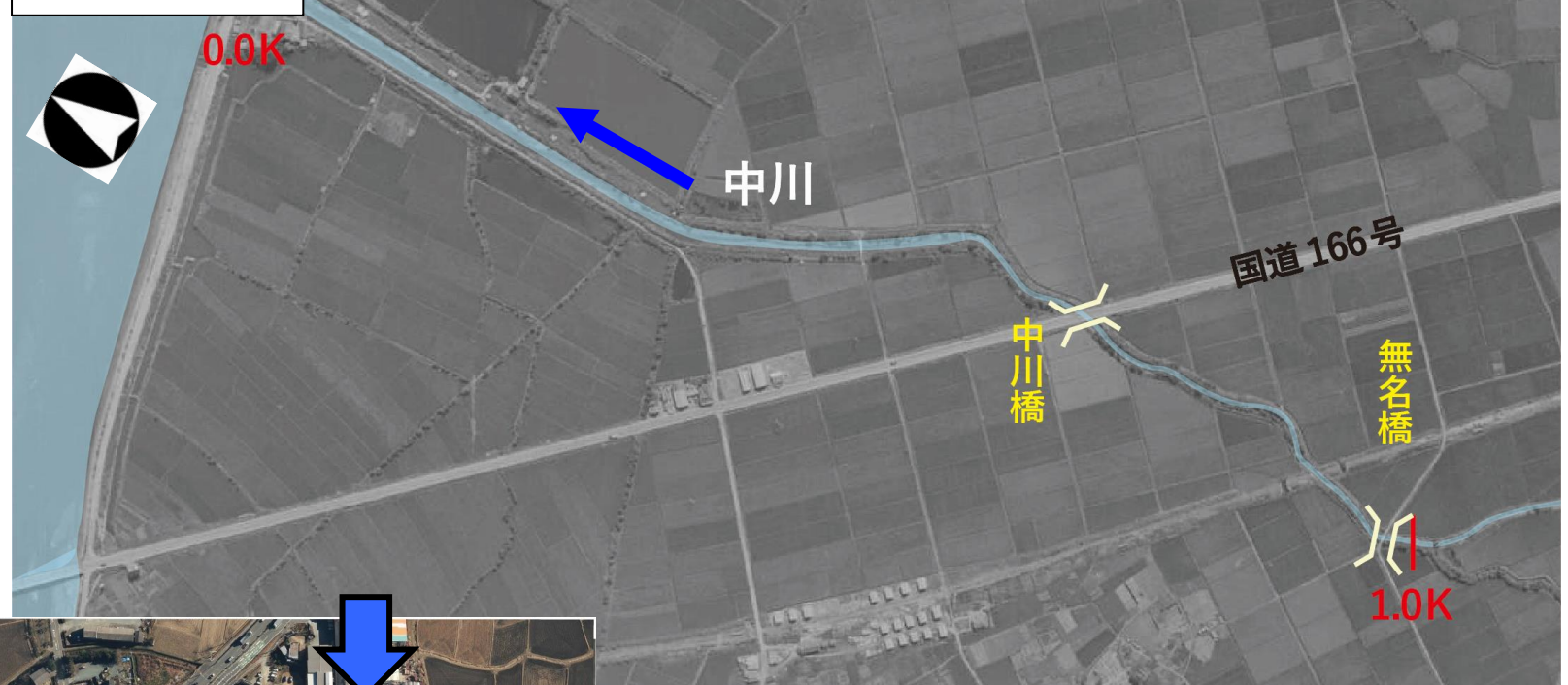
河道の変遷（中川 全区間）



- ・ 河口付近において、**国道23号**が整備されている。
- ・ **国道23号**から**上流側**では商業施設の建設や市街化が進んでいる。

中川

昭和36(1961)年



令和2(2020)年



目次

1. 流域の概要
2. 現在の計画
3. 気候変動への対応方針
4. 河川の現況
- 5. 治水の現状と課題** 
6. 利水の現状と課題
7. 環境の現状と課題
8. 今後の進め方

■既往洪水の被害状況



- 近年の洪水被害としては、平成16年9月台風21号の襲来により、百々川の越水による道路の冠水や、内水氾濫による集落の孤立化などが生じている。
- その後も平成26年9月、平成29年10月にも内水氾濫による床上浸水が生じている。
- 令和に入ってから以降では、令和6年8月台風10号で、冠水被害が発生している。

流域における洪水被害等

発生年月	原因	被害場所	被害状況
明治3年9月	大雨暴風雨 大津波	鵜村（現三雲地区笠松付近）	・ 全破堤、全村壊滅
昭和27年	台風13号	三渡川河口部（松ヶ島地区）	・ 堤防決壊7ヶ所、床上浸水453戸、床下浸水107戸
昭和34年8月	台風7号	八重田地先	・ 堀坂川の右岸66m、左岸100mの破堤 ・ 堀坂川の右岸24mの半壊
昭和34年9月	台風15号 （伊勢湾台風）	松ヶ島地区（海岸部）	・ 堀坂川右岸など市内河川22ヶ所で被害
昭和51年9月	台風17号及び豪雨	三渡川ほか	・ 床下浸水433戸、床上浸水20戸
昭和57年7月～8月	豪雨、落雷、風浪 台風10号		・ 三渡川流域内での水害区域面積850ha ・ 床下浸水481戸、床上浸水142戸
平成5年11月	豪雨及び風浪	百々川	・ 床下浸水20戸
平成6年9月	台風26号	甚太川 内水	・ 道路冠水
平成7年5月	豪雨	百々川 内水	・ 床下浸水1戸
平成10年5月	その他の異常気象	百々川 内水	・ 床下浸水2戸
平成10年9月	豪雨及び台風5号	百々川 内水	・ 床下浸水7戸
平成11年4月	豪雨	百々川 内水	・ 床下浸水1戸
平成12年9月	豪雨及び台風14号	百々川ほか 内水	・ 床下浸水56戸、床上浸水5戸
平成13年8月	豪雨及び台風11号	三渡川ほか 内水	・ 道路冠水
平成13年9月	豪雨及び台風15号	岩内川 内水	・ 道路冠水
平成16年9月	豪雨	内水	・ 床下浸水4戸
平成16年9月	台風21号	松ヶ崎地区、津屋城地区、溢水・内水	・ 床下浸水136戸、床上浸水31戸
平成26年9月	台風10号、11号	三渡川 内水	・ 床上浸水25戸、床下浸水22戸
平成28年9月	台風18号	長泉寺地区、松ヶ島地区他 内水	・ 道路冠水
平成29年10月	台風21号	三渡川、百々川内水	・ 床上浸水36戸、床上浸水24戸
令和6年8月	台風10号	百々川 内水・外水	・ 道路冠水

出典:「水害統計」他

【平成16年台風21号 内水被害】
（三渡川：津屋城地内）

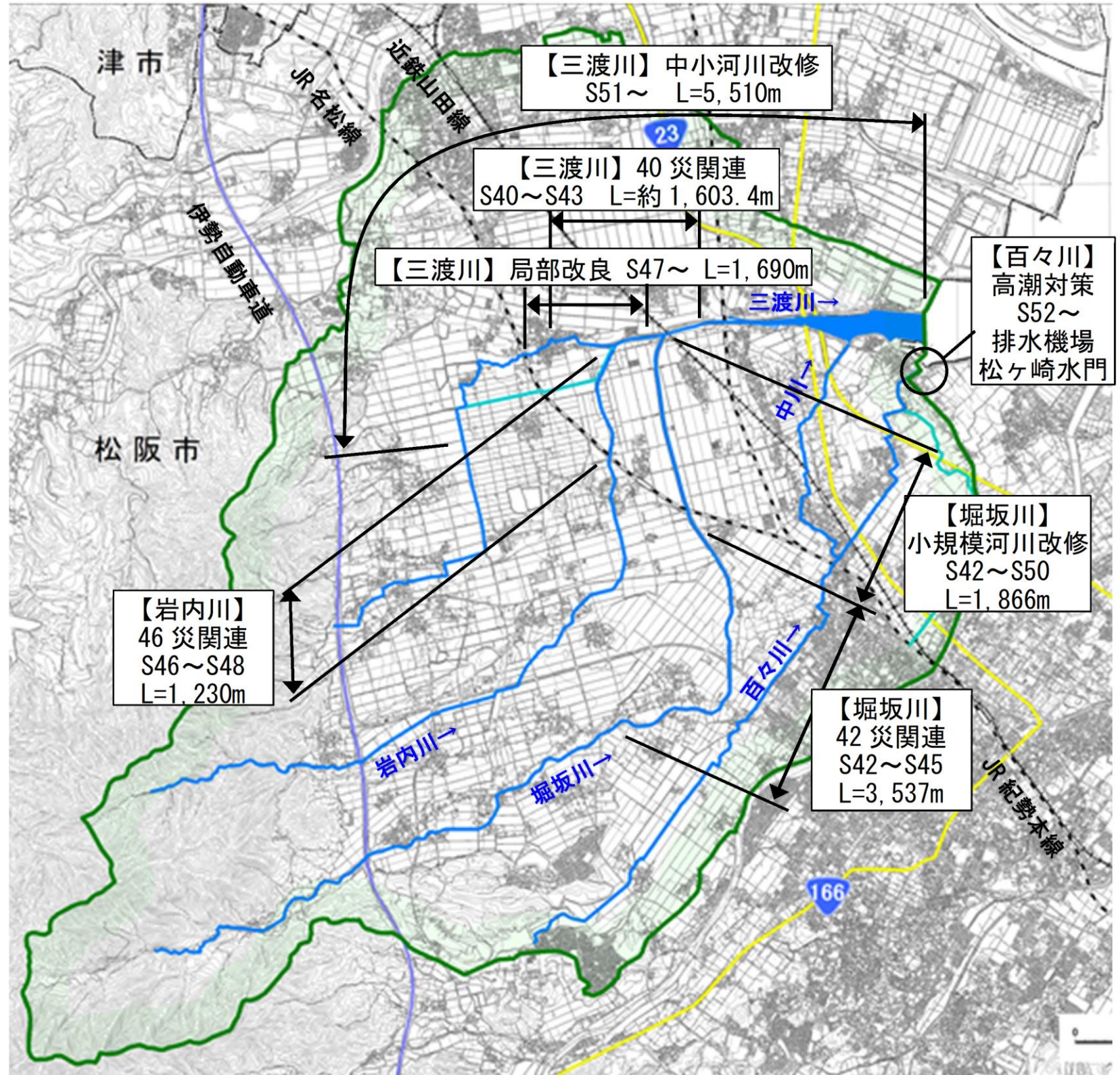


【令和6年台風10号 内水・外水被害】
（百々川：松ヶ島町地内・市道長泉寺線）



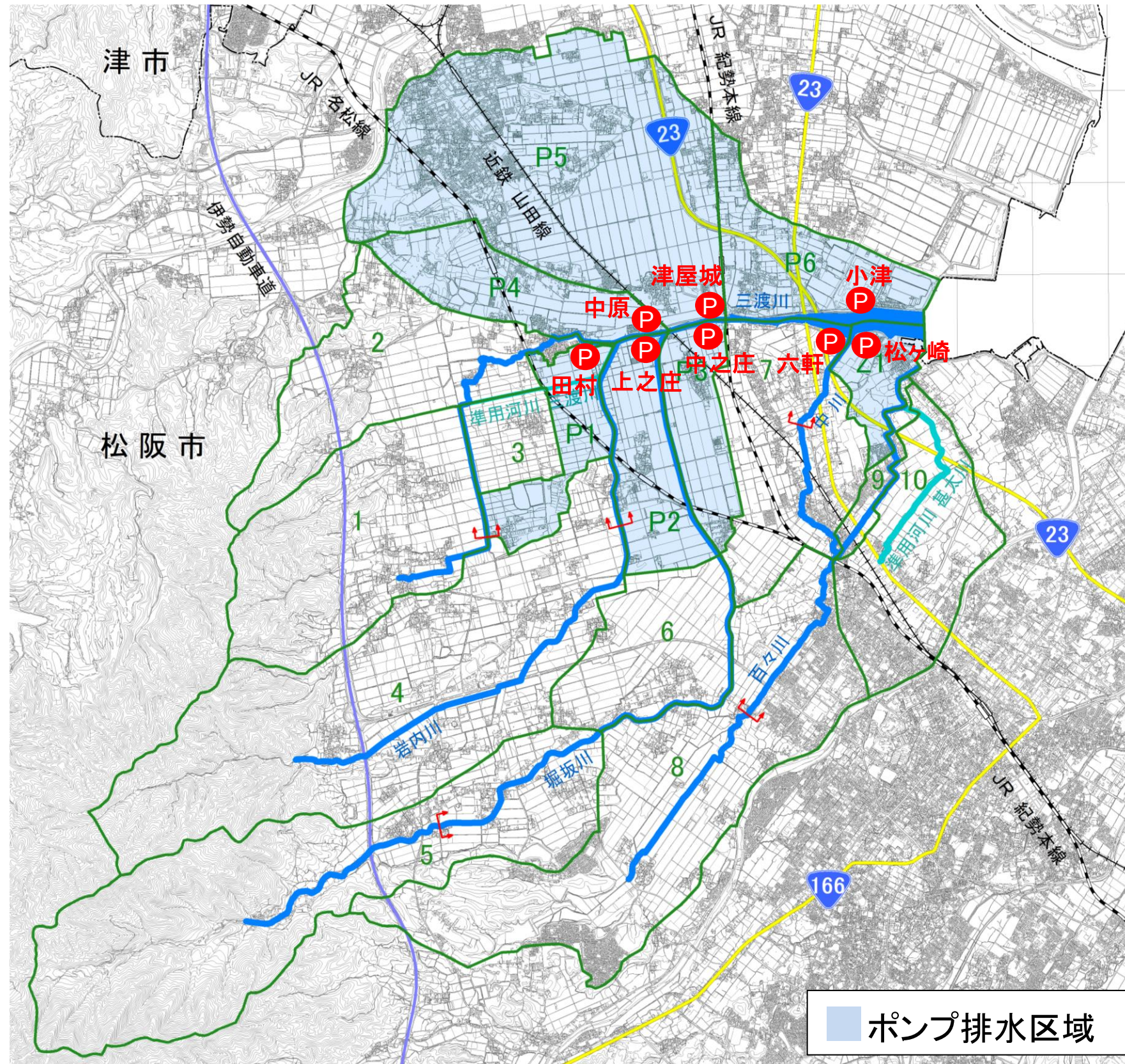


- **三渡川**は、昭和40年から災害関連事業、昭和47年・昭和51年よりそれぞれ改修事業として着手し、現在も継続中である。
- **百々川**は、昭和52年より高潮対策として排水機場及び松ヶ崎水門が整備された。昭和63年より河川改修として着手し、現在も継続中である。
- **堀坂川・岩内川・中川**では災害関連事業等により河川改修されている。
- 近年では、平成26年9月台風10号、11号による浸水被害を契機に「**松阪地区浸水対策検討会**」が発足。県・市の連携を強化。





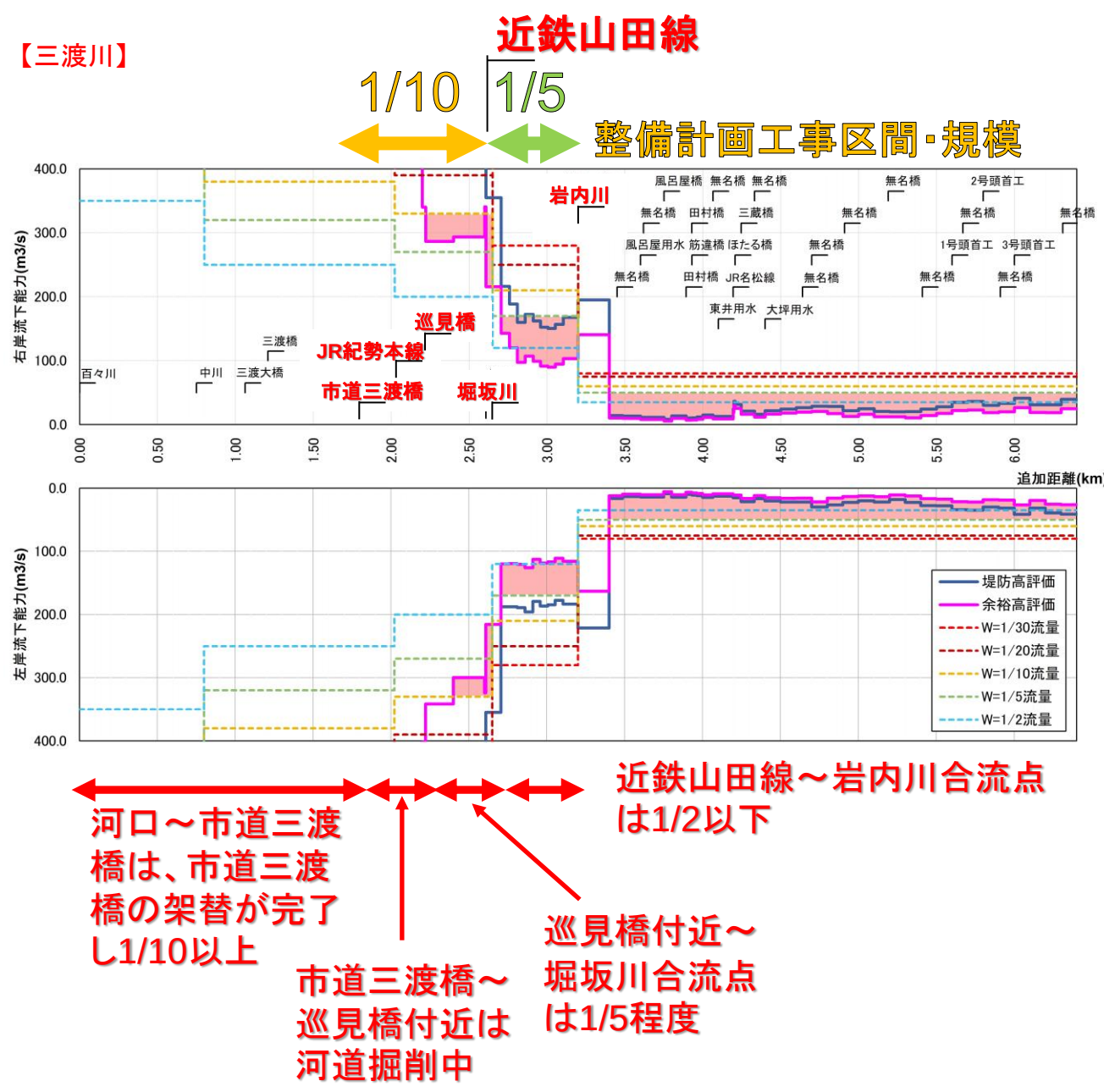
- **三渡川**周辺は低平地のため内水区域となっており、排水機場が整備されている。
- 昭和40年代は、湛水防除事業として排水機場の整備がなされた(田村、上之庄、中之庄、中原、津屋城、小津、六軒、松ヶ崎)。
- その後昭和50年代より、さらにポンプ能力が増強されている(田村、上之庄、中之庄、津屋城)。



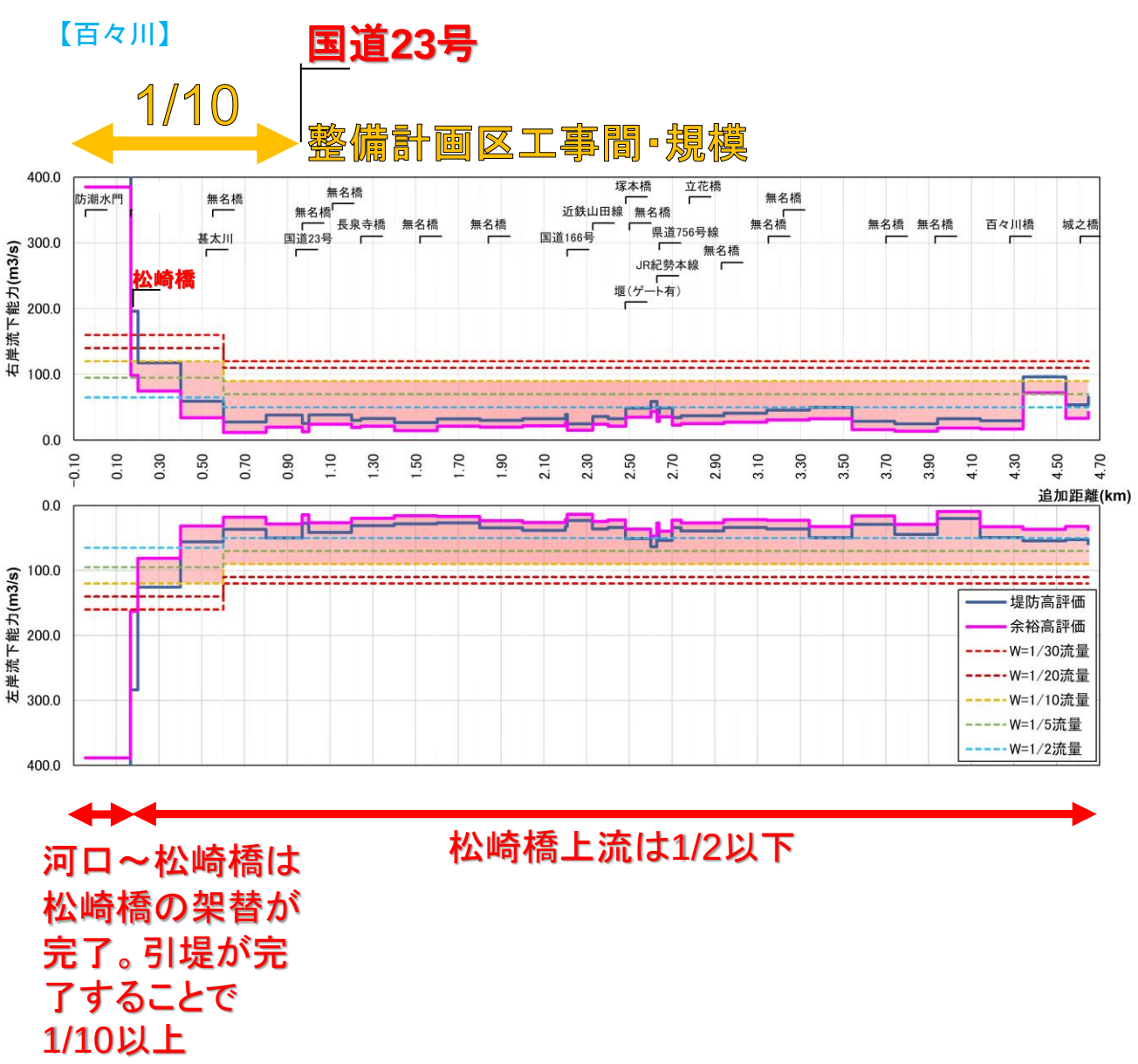
■現況流下能力(1/2)



- 三渡川は、河口～市道三渡橋(1.9k)で市道三渡橋架替が完了、整備計画規模1/10以上を有する
巡見橋付近(2.2k)～近鉄山田線(2.6k)は1/5程度で未改修。
近鉄山田線(2.6k)より上流は未改修で、概ね1/2以下。
- 百々川は、河口～松崎橋(0.2k)で河川改修を進めており、まもなく1/10以上を確保する。
- 松崎橋(0.2k)より上流は未改修で、1/2以下と計画高水流量に対する流下能力が不足。



現況流下能力図(三渡川)

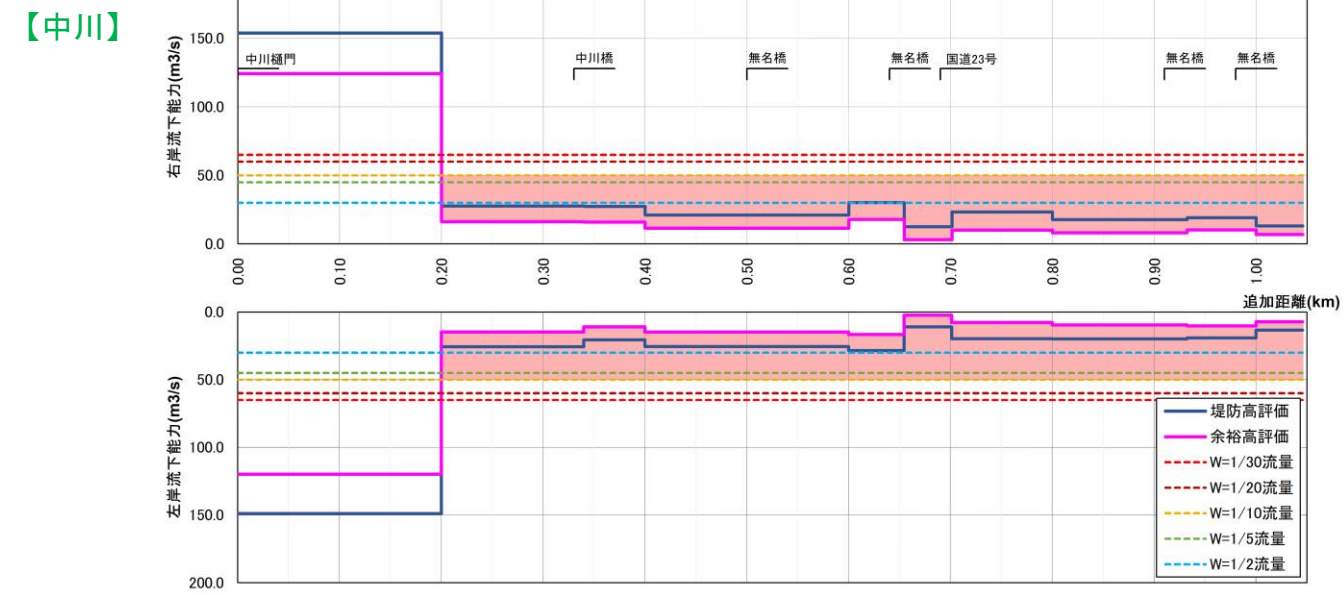
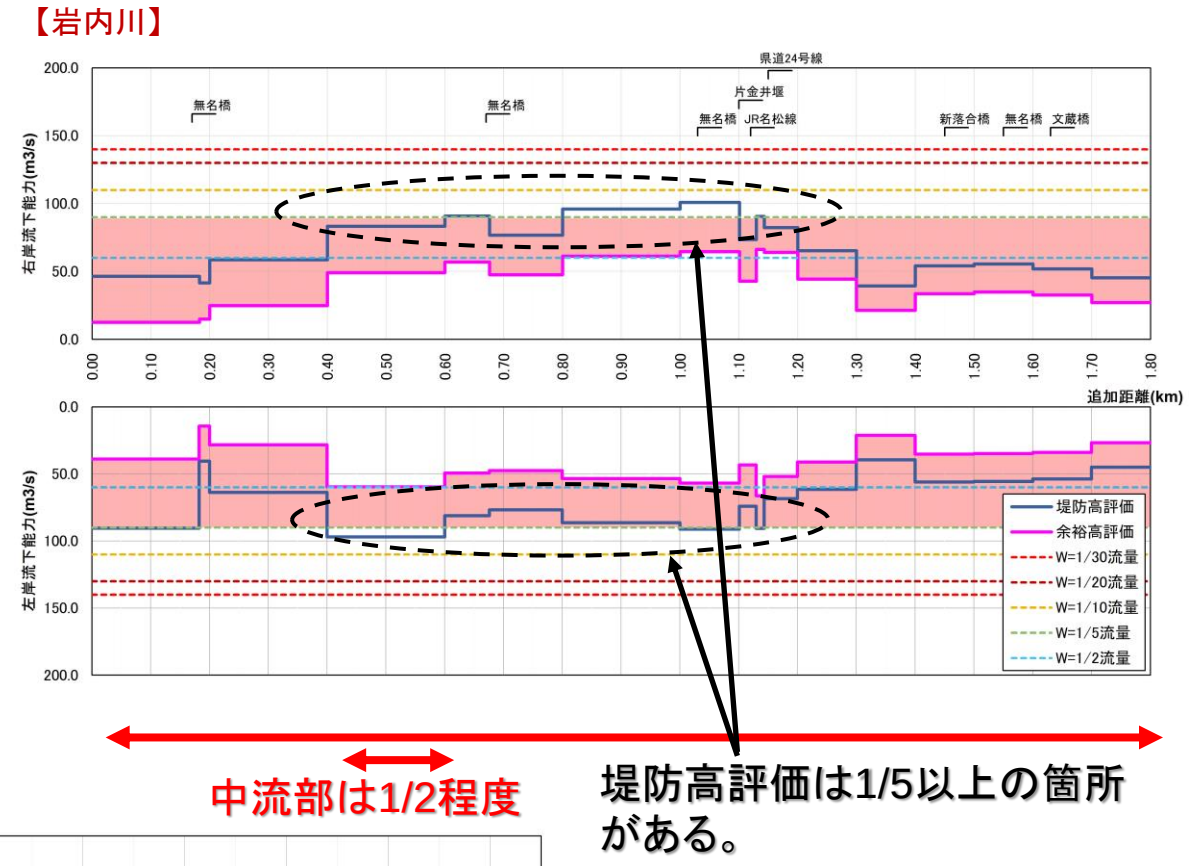
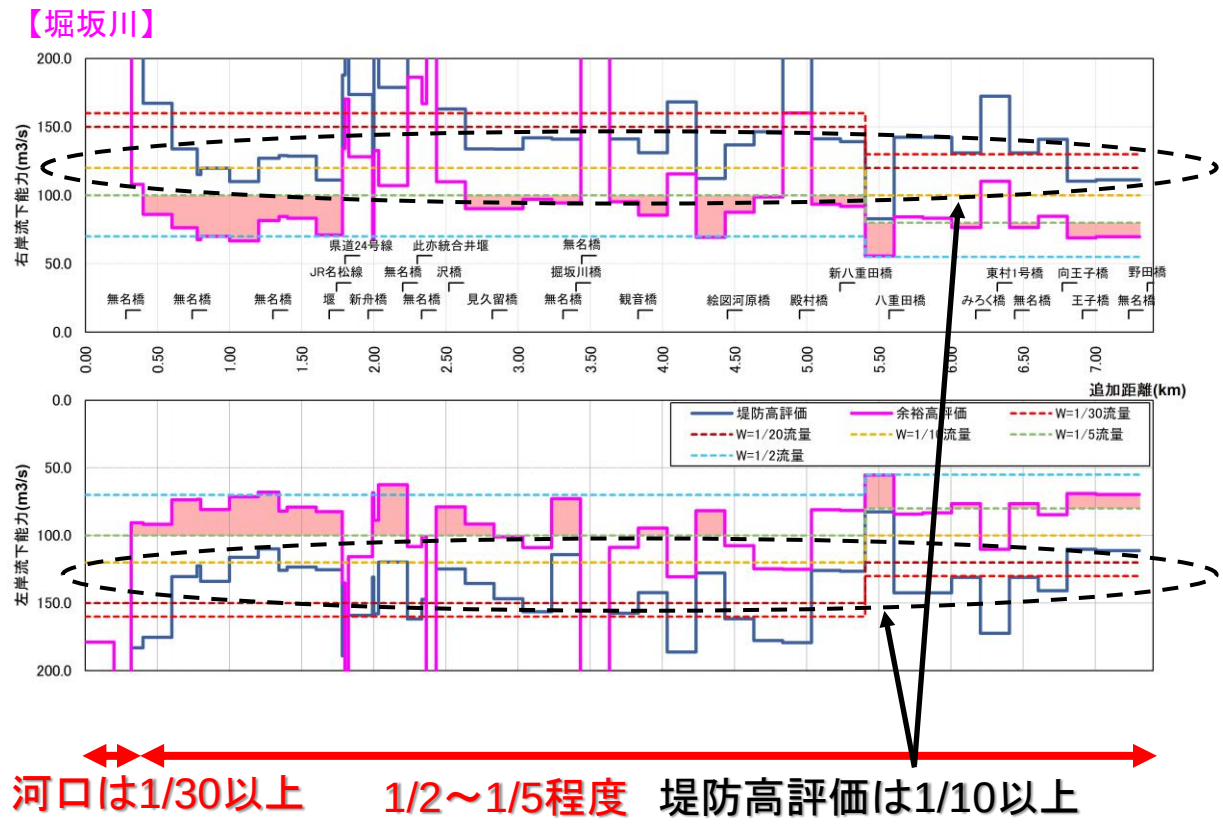


現況流下能力図(百々川)

■現況流下能力 (2/2)



- 堀坂川は、河口は1/30であるが、それより上流は1/2～1/5程度(堤防高評価なら1/10以上)
- 岩内川は、中流部は1/2程度、堤防高評価は1/5以上の箇所がある。
- 中川は、河口～0.2kは1/30であるが、それより上流は1/2以下の流下能力である。



【三渡川】

項目	内容
現状	➤ 河口～市道三渡橋（0k～1.9k）において河川改修が完了しており、 現行の河川整備計画の計画高水流量（1/10確率）以上の流下能力 を有している。 ➤ 巡見橋付近より上流（2.6k～）は流下能力が不足している状況で あり、計画高水流量に対する流下能力が不足している。 ➤ 近年も浸水被害が発生している。
課題	➤ 流下能力不足区間の早期解消 ➤ 気候変動を踏まえた治水計画の見直し

【百々川】

項目	内容
現状	➤ 河口～松崎橋（-0.07k～0.2k）において松崎橋架替が完了し、引堤 後整備計画規模（1/10確率）以上の流下能力を有する見込み。多 くの区間は未改修の状況であり、計画高水流量に対する流下能力 が不足している。 ➤ 近年、浸水被害が頻発している。
課題	➤ 流下能力不足区間の早期解消 ➤ 整備計画対象区間の見直し検討 ➤ 気候変動を踏まえた治水計画の見直し



【堀坂川・岩内川・中川】

項目	内容
現状	➤ 堀坂川及び中川は河口部（堀坂川0～0.3k、中川0～0.2k）において現行の河川整備計画の計画高水流量以上の流下能力を有している。その他の多くの区間は未改修の状況であり、計画高水流量に対する流下能力が連続して不足しているが、堀坂川における堤防高評価では（1/10）の流下能力を有している。 ➤ 岩内川は全川において計画高水流量に対する流下能力が連続して不足しているが、堤防高評価では一定の流下能力（1/5）を有している。
課題	➤ 一定の流下能力の維持 ➤ 気候変動を踏まえた治水計画の見直し

目次

1. 流域の概要
2. 現在の計画
3. 気候変動への対応方針
4. 河川の現況
5. 治水の現状と課題
- 6. 利水の現状と課題** 
7. 環境の現状と課題
8. 今後の進め方



- ・ **三渡川**水系では、許可水利権6件、慣行水利権13件あり、かんがい用水に利用されている。
- ・ 昭和 47 年に完成した**一志南部用水土地改良事業**により、北側に位置する**雲出川水系中村川**に築造された**人造湖(なめり湖)**より**三渡川**流域に送水されており、農業用水の安定供給が図られている。

【三渡川水系の水利権状況】

許可水利権

No.	河川名	井堰名	使用目的	取水量 (m³/s)	かんがい面積 (ha)
1	三渡川	3号頭首工	かんがい	0.127	56.3
2		2号頭首工	かんがい	0.061	21.8
3		1号頭首工	かんがい	0.157	45.3
4		大坪井用水	かんがい	不明	18.0
5	堀坂川	此亦 しまた 統合井堰	かんがい	0.114	53.5
6	岩内川	片金井堰	かんがい	0.082	30.0

慣行水利権

No.	河川名	井堰名	使用目的	取水量 (m³/s)	かんがい面積 (ha)
1	三渡川	風呂屋用水	かんがい	不明	8.0
2		東井用水	かんがい	不明	8.0
3	堀坂川	角田取水口	かんがい	不明	4.0
4		笠屋田取水口	かんがい	不明	4.0
5		上部田取水口	かんがい	不明	10.0
6		砂川原取水口	かんがい	不明	3.0
7		堀の内取水口	かんがい	不明	2.0
8		三反田取水口	かんがい	不明	8.0
9		中ノ庄用水（上大作取水口）	かんがい	不明	5.0
10		中ノ庄用水（下大作取水口）	かんがい	不明	4.0
11		中ノ庄用水（荒田取水口）	かんがい	不明	8.0
12		中ノ庄用水（四ツ橋取水口）	かんがい	不明	3.0
13		中ノ庄用水（平川取水口）	かんがい	不明	8.0



大坪井用水（三渡川4.5k付近）



此亦(しまた)統合堰(堀坂川2.3k付近)



【水利用】

項目	内容
現 状	➤ 三渡川は、許可水利権4件、慣行水利権2件があり、約157haの耕地のかんがい用水として利用されている。 ➤ 堀坂川は許可水利権1件、慣行水利権11件があり、約113haの耕地のかんがい用水として利用されている。 ➤ 岩内川は許可水利権1件があり、約30haの耕地のかんがい用水として利用されている。
課 題	➤ 利水の効率化を促進し、既得水利の取水が安定的になされ、かつ良好な水環境の維持・改善

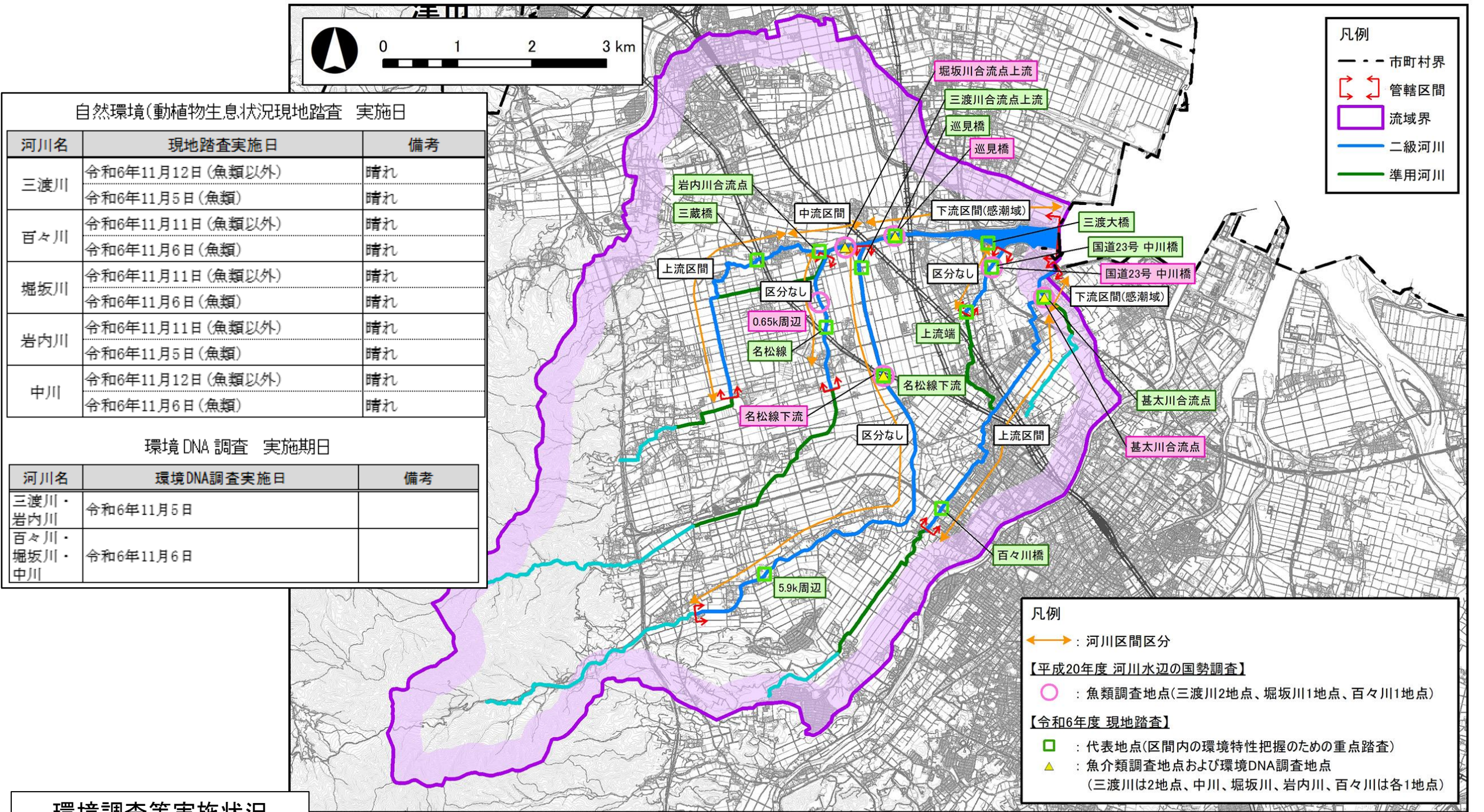
目次

1. 流域の概要
2. 現在の計画
3. 気候変動への対応方針
4. 河川の現況
5. 治水の現状と課題
6. 利水の現状と課題
- 7. 環境の現状と課題** 
8. 今後の進め方

環境調査の概要



- 平成20年の河川水辺の国勢調査(魚類)では、**三渡川**2地点、**百々川**および**堀坂川**各1地点で調査を実施。
- 令和6年11月5～6日に**魚類調査・環境DNA調査**、11月11～12日に**魚類以外の調査**を実施。



環境調査等実施状況



□下流区間(感潮域):流れは緩やかで河床材料は砂泥。干潮時に一部干潟あり



三渡大橋下流から上流方向

□中流区間:流れは緩やかで河床材料は砂泥。一部にオギ群落あり。



岩内川合流点から上流方向

□上流区間:滞筋の蛇行により流れは多様で河床材料は砂礫。ツルヨシ群落あり



三蔵橋から上流方向



巡見橋から下流方向

下流区間(感潮域)の状況



岩内川合流点から下流方向

中流区間の状況



三蔵橋から下流方向

上流区間の状況



- 現地踏査・環境DNA調査で、**33種**の魚類が確認され、このうち重要種は、**ニホンウナギ**、**ヤリタナゴ**、**ホトケドジョウ**、**ミナミメダカ**、**クロヨシノボリ**の**5種**、特定外来生物は、**カダヤシ**、**ブルーギル**、**オオクチバス**の**3種**であった。下流域は、マハゼ等汽水域の代表的な種、中流域は、チチブ等の回遊魚、タモロコ等の純淡水魚を確認。
- H20河川水辺の国勢調査で、**30種**の魚類が確認され、このうち重要種は、**ニホンウナギ**、**コウライモロコ**、**ミナミメダカ**、**クルマサヨリ**、**カマキリ**の**5種**、特定外来生物は、**カダヤシ**、**ブルーギル**、**オオクチバス**の**3種**であった。

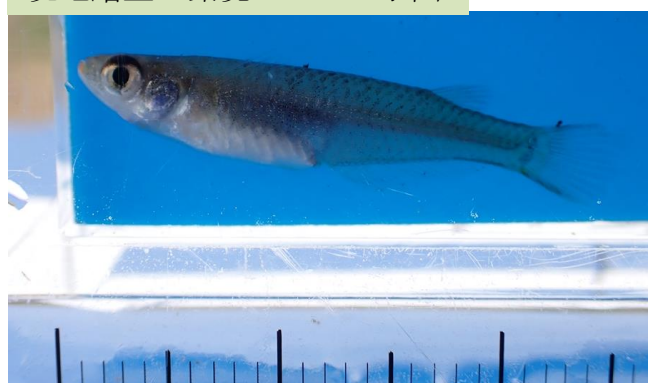
主な**重要種**（魚類）

現地踏査・環境DNA・H20水国



ニホンウナギ(下流・中流)

現地踏査・環境DNA・H20水国



ミナミメダカ(下流・中流)

H20水国



コウライモロコ(中流)

H20水国



カマキリ(下流)

特定外来生物（魚類）

現地踏査・環境DNA・H20水国



ブルーギル(下流・中流)

現地踏査・H20水国



カダヤシ(下流・中流)

環境DNA・H20水国



オオクチバス(中流)



- 現地踏査で、108種の生物が確認された（魚類13種を除く）。
- 重要種は、**タケノコカワニナ**、**アリアケモドキ**、**アキアカネ**、**シロチドリ**、**ハウロクシギ**、**ハマシギ**、**ミサゴ**、**ハイタカ**、**ニホンイシガメ**の計9種を確認。
- 特定外来生物は、**ミシシippアカミミガメ**、**アライグマ**の2種を確認。
- ホオジロなどの草地性鳥類がみられるほか、クロベンケイガニなど汽水域の代表的な種もあり

主な重要種（魚類以外）



タケノコカワニナ（下流・中流）



アリアケモドキ（中流）



アキアカネ（全区間）



シロチドリ（下流）



ハウロクシギ（下流）



ハマシギ（下流）



ミサゴ（下流）



ハイタカ（中流）



ニホンイシガメ（上流）

特定外来生物（魚類以外）



ミシシippアカミミガメ（全区間）



アライグマ（全区間） 画像出典：環境省提供資料



□下流区間(感潮域):流れは緩やかで河床材料は砂泥。ヨシ群落あり。

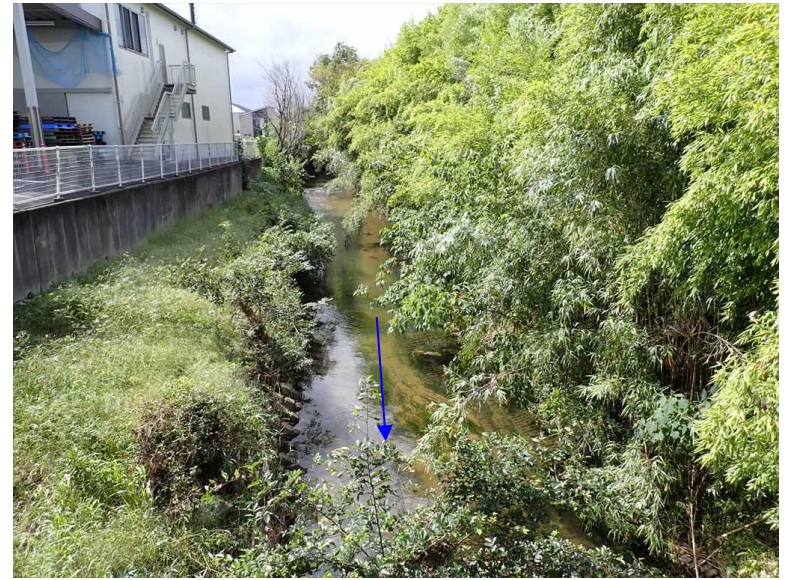


下流端の水門

□上流区間:甚太川合流点付近から上流端の区間。水深が浅く流れは緩やかで河床材料は砂礫。横断構造物が点在する。一部に沈水植物のオオカナダモ群落が見られる。



甚太川合流点から上流方向



百々川橋から上流方向



甚太川合流点から下流方向



百々川橋から下流方向



上流端から下流方向

下流区間(感潮域)の状況

上流区間の状況



- 現地踏査・環境DNA調査で、**26種**の魚類が確認され、このうち重要種は、**ニホンウナギ、ヤリタナゴ、ドジョウ、ギギ、ミナミメダカ**の**5種**、特定外来生物は、**カダヤシ、ブルーギル**の**2種**であった。
- H20河川水辺の国勢調査で、**26種**の魚類が確認され、このうち重要種は、**ニホンウナギ、アシシロハゼ**の**2種**、特定外来生物は、**カダヤシ、ブルーギル、オオクチバス**の**3種**であった。

主な**重要種**（魚類）

環境DNA・H20水国



ニホンウナギ

現地踏査



ミナミメダカ

H20水国



アシシロハゼ

特定外来生物（魚類）

現地踏査・環境DNA・H20水国



カダヤシ

環境DNA・H20水国



ブルーギル

H20水国



オオクチバス

- 現地踏査で54種の生物が確認された(魚類3種を除く)。
- 重要種は、**マツカサガイ**東海固有種、**オオタカ**の**2種**を確認。
- 特定外来生物は、**ミシシippアカミミガメ**、**ヌートリア**の**2種**を確認。
- 水深が深く緩やかな流れでカモ類などの鳥類がみられる。



マツカサガイ東海固有種



オオタカ

特定外来生物(魚類以外)



ミシシippアカミミガメ



ヌートリア 画像出典:環境省提供資料



□全区間：流れは多様で河床材料は砂礫。護岸はコンクリート、ブロック積、ブロック張。中洲や寄り洲は、ツルヨシ等が分布する。全区間で農地に囲まれ、農業用堰や床固等の構造物が多数存在する。



三渡川合流点上流から上流方向



JR名松線から上流方向



5.9kから上流方向



三渡川合流点上流から下流方向



JR名松線から下流方向



上流端から下流方向

堀坂川の状況



- 魚類調査・環境DNA調査で、**22種**の魚類が確認され、このうち重要種は、**ニホンウナギ、ヤリタナゴ、ドジョウ、ホトケドジョウ、ギギ、カワアナゴ、クロヨシノボリ**の**7種**、特定外来生物は、**カダヤシ**の**1種**であった。ギンブナ、カマツカ等の淡水魚が確認された。
- H20河川水辺の国勢調査で、**22種**の魚類が確認され、このうち重要種は、**ニホンウナギ、カワヒガイ、ミナミメダカ**の**3種**、特定外来生物は、**ブルーギル、オオクチバス**の**2種**であった。

主な重要種（魚類）

現地踏査・環境DNA・H20水国



ニホンウナギ

現地踏査・環境DNA



ヤリタナゴ

H20水国



カワヒガイ

H20水国



ミナミメダカ(下流・中流)

現地踏査



ギギ

特定外来生物（魚類）

現地踏査・環境DNA



カダヤシ

H20水国



ブルーギル

H20水国



オオクチバス



- 現地踏査で、85種の生物が確認された（魚類10種を除く）。
- 重要種は、アキアカネ、ヤマトアシナガバチ、ハイタカ、ニホンスッポンの計4種を確認。
- 特定外来生物は、ミシシippアカミミガメ、ヌートリア、アライグマの3種を確認。

主な重要種（魚類以外）



アキアカネ



ヤマトアシナガバチ



ハイタカ

特定外来生物（魚類以外）



ミシシippアカミミガメ(全区間)



ヌートリア



アライグマ

画像出典：環境省提供資料

画像出典：環境省提供資料



□全区間：水深は浅く流れは緩やかで河床材料は砂礫。護岸はコンクリート、ブロック積。中洲や寄り洲は、ツルヨシ群落が分布する。横断構造物は上流端に1箇所のみ位置する。



三渡川合流点



0.65kから上流方向



JR名松線から上流方向



下流端から上流方向



0.65kから下流方向



JR名松線から下流方向

岩内川の状況



- 魚類調査・環境DNA調査で、**21種**の魚類が確認された。
- 重要種は、**ニホンウナギ**、**ホトケドジョウ**、**クロヨシノボリ**の**3種**、特定外来生物は、**カダヤシ**、**ブルーギル**の**2種**を確認。ただし、重要種も特定外来生物も環境DNA調査でのみの確認。その他、**カワムツ**等の淡水魚、**ゴクラクハゼ**等の汽水魚が確認された。
- 魚類以外の生物では、現地踏査で58種の生物が確認された。重要種は、**アキアカネ**の**1種**、特定外来生物は、**アライグマ**の**1種**を確認。

主な**重要種**（魚類以外）



アキアカネ

特定外来生物（魚類以外）



アライグマ

画像出典：環境省提供資料

□全区間：水深は多様で流れは緩やかで、河床材料は砂泥。護岸はブロック積、ブロック張。中洲や寄り洲には、ミゾソバ群落等が分布する。横断構造物はみられない。



下流端の水門



中川橋から上流方向



県管理区間上流端から上流方向



下流端から上流方向



中川橋から下流方向



県管理区間上流端から下流方向

中川の状況



- 魚類調査・環境DNA調査で、**14種**の魚類が確認された。
- 重要種は、**ニホンウナギ**、**ヤリタナゴ**、**ミナミメダカ**の**3種**を確認。
- 特定外来生物は、**カダヤシ**、**ブルーギル**の**2種**を確認。ただし、**ニホンウナギ**、**ヤリタナゴ**、**カダヤシ**、**ブルーギル**は環境DNA調査でのみの確認。
- 魚類以外の生物では、現地踏査で53種の生物が確認された。重要種は、**フサモ**、**アキアカネ**の**2種**、特定外来生物は、**ミシシippアカミミガメ**、**ヌートリア**の**2種**を確認。

主な**重要種**（魚類）



ミナミメダカ

主な**重要種**（魚類以外）



フサモ



アキアカネ

特定外来生物（魚類以外）



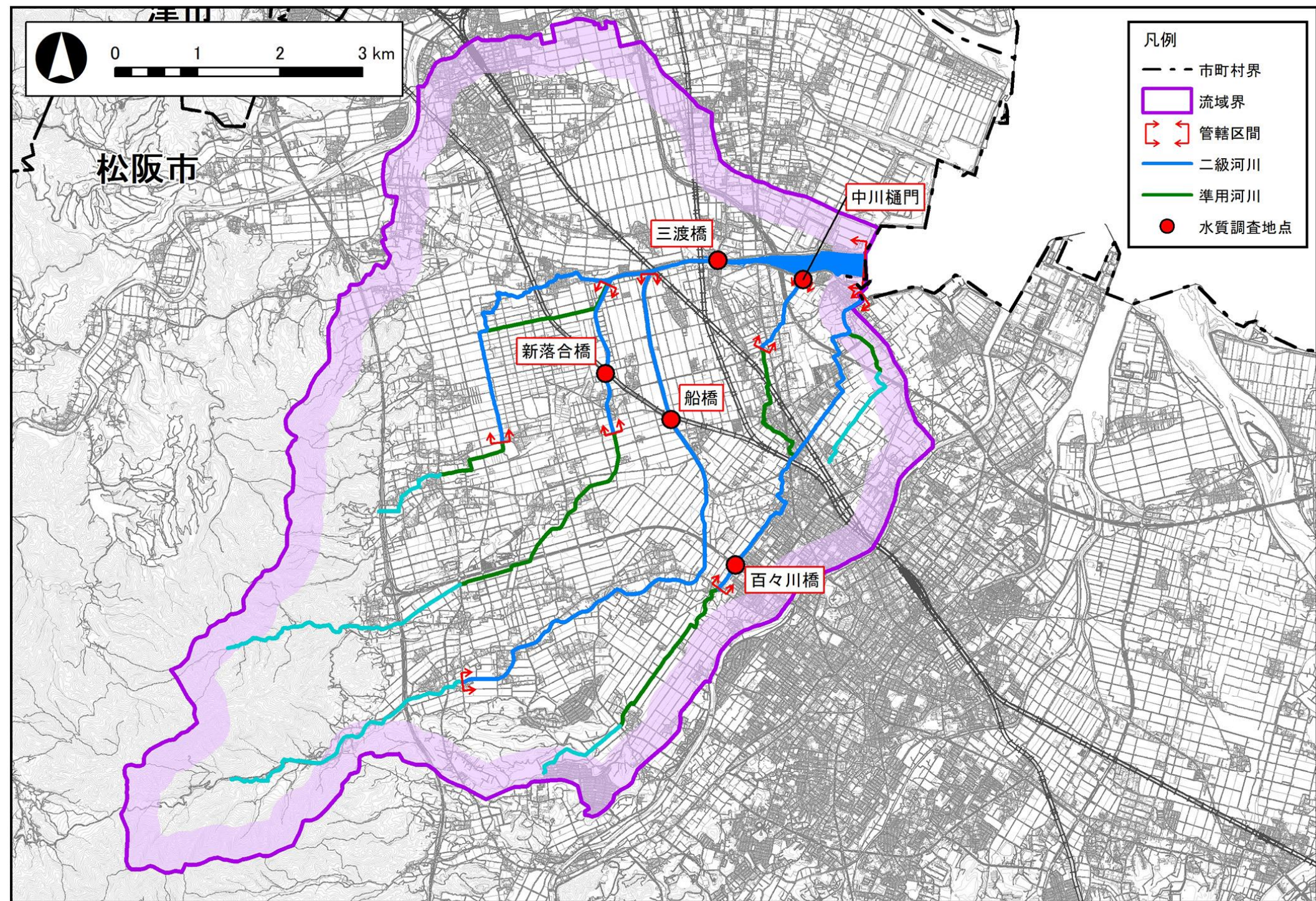
ミシシippアカミミガメ



ヌートリア

画像出典：環境省提供資料

- 三渡川、百々川、堀坂川、岩内川、中川に係る環境基準は類型指定が行われていないが、各河川に1箇所の水質基準点を設置して、松阪市により水質の監視が行われている。



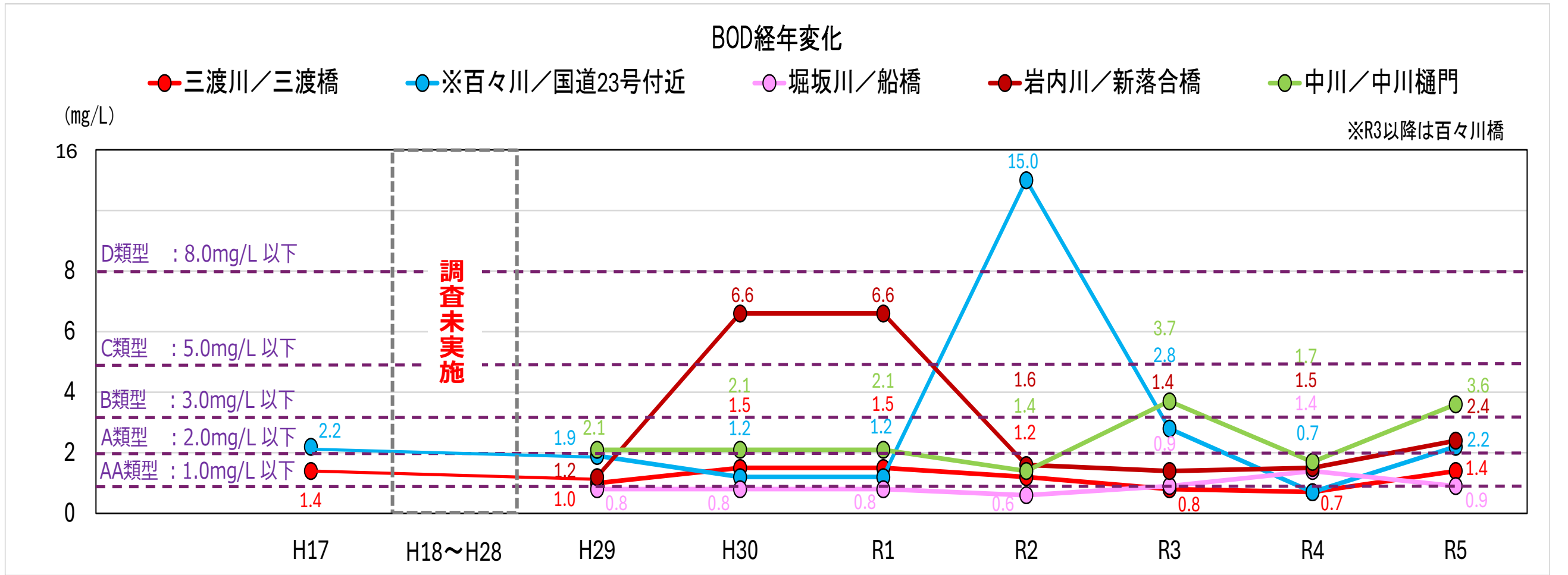
※この地図は、「電子地形図25000（国土地理院）」を加工して作成している。

三渡川水系の水質調査地点位置図

河川水質の推移（水質調査）



- BODにおいて、**三渡川**、**堀坂川**は経年的に安定しており、いずれの値も環境基準A類型相当を満足する値となっている。
- 一方、**百々川**、**岩内川**、**中川**は経年的に不安定である。
百々川は、令和2年に大幅な増加がみられるがそれ以外はB類型相当である。
岩内川は、平成30年・令和元年に大幅な増加がみられるがそれ以外は概ねA類型相当。
中川は、直近の3年程度はC類型相当である。
- **三渡川**、**百々川**における平成17年(現行整備計画策定時)と近年を比較すると、大きな変化はみられない。



三渡川水系のBODの経年変化

【三渡川】

項目	内 容
現 状	➤ <u>下流域</u>は感潮区間であり、小規模な干潟がみられ、マハゼやクロベンケイガニなど汽水域の代表的な種がみられる。 ➤ <u>中流域</u>はオギ群落やチガヤ群落がみられ、ホオジロなどの草地性鳥類がみられるほか、水域では、チチブ等の回遊魚、タモロコ等の純淡水魚と、多様な魚類相を呈する。 ➤ <u>上流域</u>は水際や中州でツルヨシ群落がみられるほか、濤筋の蛇行により瀬淵が創出され水深や流れが多様となっている。 ➤ 良好な水質（A類型相当）が維持されている。

【百々川】

項目	内 容
現 状	➤ <u>下流域</u>は河口域でヨシ群落などの水際植生があり、水深が深く緩やかな流れでカモ類などの鳥類がみられるほか、水域ではミナミメダカなど緩やかな流れを好む魚種がみられる。 ➤ <u>上流域</u>は、水深が浅く緩やかながれとなっており、一部に沈水植物のオオカナダモ群落がみられる。 ➤ 直近の3年程度はB類型相当の水質となっている。



【堀坂川】

項目	内 容
現 状	➤ 全区間で農地に囲まれ、農業用堰や床固等の構造物が多数存在し、水域ではニホンウナギ等の回遊魚、ギンブナ、カマツカ等の淡水魚がみられる。 ➤ 良好な水質（A類型相当）が維持されている。

【岩内川】

項目	内 容
現 状	➤ 全区間で水深は浅く流れは緩やかで、水際にはツルヨシ群落がみられるほか、水域ではカワムツ等の淡水魚、ゴクラクハゼ等の汽水魚がみられる。 ➤ 直近の3年程度はB類型相当の水質となっている。

【中川】

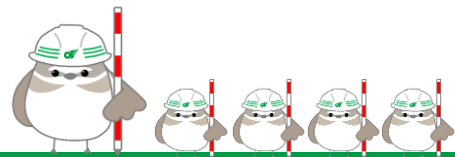
項目	内 容
現 状	➤ 全区間で水深は多様で流れは緩やか、水際にはミゾソバ群落がみられるほか、水域ではミナミメダカ等緩やかな流れを好む魚種がみられる。 ➤ 直近の3年程度はC類型相当の水質となっている。

共通課題

項目	内 容
課 題	➤ 自然環境・利水面との調和を図りつつ、維持管理に努める。 ➤ 水質の維持

目次

1. 流域の概要
2. 現在の計画
3. 気候変動への対応方針
4. 河川の現況
5. 治水の現状と課題
6. 利水の現状と課題
7. 環境の現状と課題
8. 今後の進め方 



第1回 流域委員会（令和7年2月7日）

- ✓流域の概要、現地視察
- ✓治水、利水、環境の現状と課題

今回

第1回 アンケート（令和7年冬～春頃）

- ✓関係住民の意見聴取
（流域の課題、河川改修の要望等）

第2回 流域委員会（令和7年春頃）

- ✓河川整備計画（原案）（案）の提示

第2回 アンケート（令和7年初夏頃）

- ✓関係住民の意見聴取
（河川整備計画（原案）（案））

第3回 流域委員会（令和7年夏頃）

- ✓河川整備計画（原案）の提示

関係機関協議・パブコメ・関係市町長意見聴取

河川整備計画策定